

# 東京国立文化財研究所要覧

1 9 7 8

昭和 53 年度

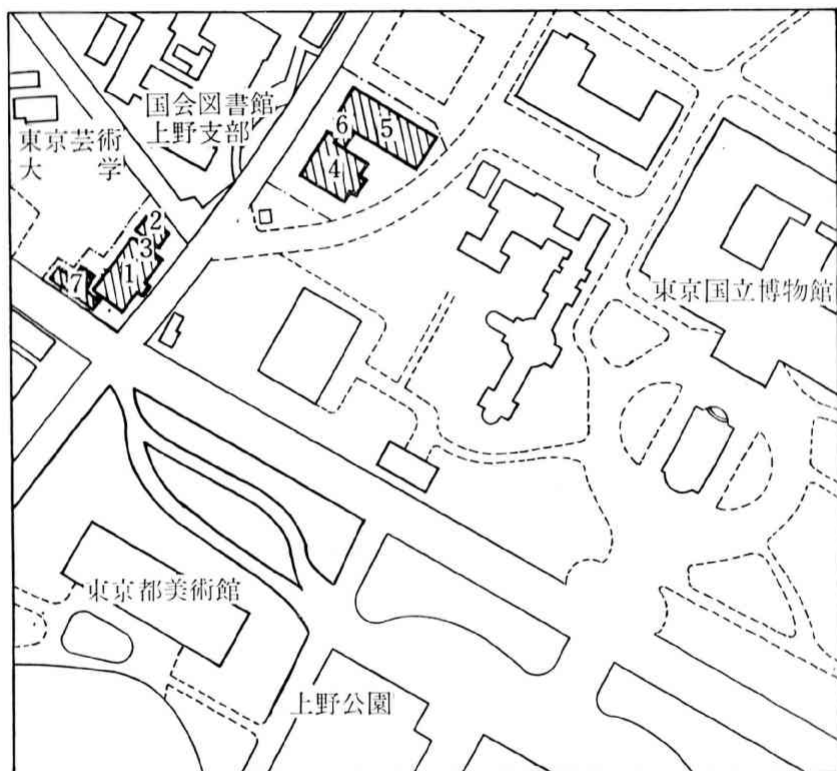


東京国立文化財研究所本館・情報資料部研究棟



東京国立文化財研究所保存科学部実験室・別館

東京国立文化財研究所建物所在図



1. 本館（美術部）
2. 書庫
3. 渡廊下
4. 保存科学部実験室（庶務課・保存科学部）
5. 別館（芸能部・保存科学部・修復技術部）
6. 渡廊下
7. 情報資料部研究棟

## は　じ　め　に

昭和53年度は、その最初の日である4月1日付けをもって、関野所長が退官され、代って伊藤が新所長に就任した。したがって本年度は新所長のもとでの第1年度である。ただし所長としての御挨拶は、すでに前号に記したから、ここでは重複を避けることといたしたい。

さて、昭和53年度をふりかえてみると、比較的平穩裡に推移した年度であったといつてよからう。人事の移動も比較的少なかったが、ただ3カ年間庶務課長として研究所の運営に努力されてきた松原庶務課長は、この年度末をもって国立極地研究所に転出された。当研究所における積極的な活動に対し敬意と感謝の意を表し、新しい職場における一層の活躍を期待したい。

所内の制度整備の一環としては、招へい研究員規程と名誉研究員に関する内規とを定めた。前者は当年度より発足した制度で、国内及び国外からの優れた研究者を招へいして、共同研究の実をあげようとするもので、本規程はこの制度を円滑に実施するため、招へい者の資格、選考法、任務等を定めたものである。名誉研究員の内規は、長年当研究所の研究に業績をあげ、所の運営、発展に尽力された先輩諸氏の功に報いる趣旨から出たものである。先輩諸氏には倍旧の御好意を寄せていただけることを期待し、かつお願い申し上げたい。

研究活動では、各部とも格別新規計画の発足はなかったが、従来からの計画にそった研究の発展がみられたことは喜ばしい。しかし国家行政全体の緊縮傾向に影響されて、定員、予算とも増加が意にまかせなかったことは致し方ないこととはいえ、残念であった。

事業関係では、まず黒田清輝巡回展を千葉市の千葉県立美術館で同館との共催により行った。また文化財の保存と修復に関する国際研究集会は、その第2回を、文化財と分析化学というテーマで開催した。文化財に関する海外との交流がますます盛んとなることが期待される。

昭和55年3月

東京国立文化財研究所長

伊　藤　延　男



## 目 次

I 沿 革 .....	1
1 設 立 の 経 緯 .....	1
2 年 表 .....	1
3 歴 代 所 長 .....	5
II 設立目的と機構 .....	6
1 機 構 .....	6
2 職種別予算定員 .....	7
3 職 員 .....	8
III 土地・建物 .....	10
1 建物の面積・構造一覧 .....	10
2 建物の平面図 .....	11
IV 予 算 .....	16
1 歳 出 予 算 .....	16
2 科 学 研 究 費 .....	16
V 調 査 研 究 .....	17
1 所 長 .....	17
2 美 術 部 .....	17
(1) 概 要 .....	17
(2) 研究調査活動 .....	19
A 一般研究 .....	19
B 特別研究 .....	22
C 科学研究費 .....	23
3 芸 能 部 .....	24
(1) 概 要 .....	24

(2) 研究調査活動 .....	26
A 一般研究 .....	26
B 日本学術振興会研究費 .....	28
4 保存科学部 .....	28
(1) 概    要 .....	28
(2) 研究調査活動 .....	29
A 一般研究 .....	29
B 特別研究 .....	34
C 受託研究 .....	35
D 科学研究費 .....	36
5 修復技術部 .....	38
(1) 概    要 .....	38
(2) 研究調査活動 .....	39
A 一般研究 .....	39
B 特別研究 .....	42
C 受託研究 .....	43
D 科学研究費 .....	45
6 情報資料部 .....	46
(1) 概    要 .....	56
(2) 研究調査活動 .....	47
A 一般研究 .....	47
B 科学研究費 .....	49
7 主要研究業績 .....	49
8 その他の研究活動 .....	64
VI 事    業 .....	65
1 出        版 .....	65
(1) 美術研究 .....	65
(2) 日本美術年鑑 .....	65

(3) 芸能の科学 .....	65
(4) 保存科学 .....	66
(5) その他の出版物 .....	67
2 黒田清輝巡回展 .....	70
3 公開学術講座 .....	70
4 会 議 .....	71
5 国際・国内交流 .....	75
VIII 研究施設・設備 .....	79
1 蔵 書 .....	79
2 資 料 .....	80
3 機器・設備 .....	81
4 黒田記念室 .....	85
5 閲覧室 .....	86
VII 旧 職 員 .....	87
IX 関係法規 .....	88

# I 沿革

## 1 設立の経緯

本研究所は、昭和27年4月1日発足したのであるが、その前身であり母体となったものは、昭和5年に創設された帝国美術院附属美術研究所である。

この美術研究所は、大正13年7月、故帝国美術院長子爵黒田清輝の遺言により美術奨励事業のために出捐した資金で遺言執行人が選択決定した事業である。すなわち遺言執行人代表伯爵樺山愛輔は、故子爵の遺志にしたがってこの資金で行うべき事業の選定を伯爵牧野伸顕に一任した。牧野伯爵は帝国美術院長福原隼二郎及び東京美術学校長正木直彦とはかつて諸方面の意見を徴し、また我が国美術上の必要に照らして次の事業を行うこととした。

- (1) 美術に関する基礎的調査研究機関として美術研究所を設けること。
- (2) 黒田子爵の作品を陳列して同子爵の功績を記念すること。
- (3) 前二項の目的を達するために適当な建物を造営すること。
- (4) 事業成立のうえは一切これを政府に寄附すること。

## 2 年 表

昭和元年12月 前記の事業を遂行するため委員会が設置され、東京美術学校長正木直彦が委員長に就任し、美術研究所事業について東京美術学校教授矢代幸雄、黒田子爵作品陳列について東京美術学校教授久米桂一郎・岡田三郎助・同和田英作・同藤島武二及び大給近清、建築造営について東京美術学校教授岡田信一郎、会計事務について遺言執行人打田伝吉を各委員として事務を分掌進行させた。

昭和2年2月 美術研究所準備事業を開始した。

同年10月 東京市上野公園内に鉄筋コンクリート造、半地階2階建、延面積1,192㎡の建物1棟を起工した（本館）。

同3年9月 前記の建物が竣工したので、美術研究所開設のため必要な備品・図書・写真等の研究資料を設備し、また館内に黒田子爵記念室を設け、同子爵の作品

## 沿革

を陳列した。

同 4年5月 遺言執行人代表者樺山愛輔は、建物・設備・研究資料等一切の外に金15万円をそえて帝国美術院長に寄附を願い出た。

同 5年6月28日 勅令第125号により帝国美術院に附属美術研究所が置かれ、東京美術学校校長正木直彦が同研究所の主事に補せられた。

同 年10月17日 美術研究所開所式を挙行了した。

同 7年1月 美術研究所の研究成果発表機関誌として、定期刊行物「美術研究」を創刊した。

同 年4月18日 株式会社朝日新聞社より明治大正美術史編纂費として本年から向う5ヶ年間毎年5千円、合計2万5千円を帝国美術院に寄附したいとの申出があった。

同 年5月26日 帝国美術院はこの申出を受理した。

明治大正美術史編纂委員会規程を設け、美術研究所は明治大正美術史の編纂に関する事務を行うことになった。

同 9年10月18日 毎年10月18日を開所記念日と定めた。

同10年1月28日 鉄筋コンクリート造、2階建、延面積129㎡の書庫が竣工した。

同 年4月 「日本美術年鑑」の編纂事務を開始した。

同 年6月1日 勅令第148号により美術研究所官制が公布された。

研究資料閲覧規程を制定し、閲覧事務を開始した。

同12年6月24日 勅令第281号により美術研究所官制中改正の件が公布され、従来、帝国美術院に附置されていたのを文部大臣の直轄に改められた。

同 年11月29日 美術研究所長職務規程、美術研究所事務分掌規程が制定された。

同13年2月12日 木造、平家建、延面積97㎡の写真室1棟が竣工した。

同19年8月10日 黒田清輝の作品、並びに写真原版を東京都西多摩郡小宮村谷間家倉庫に疎開した。

同20年5月28日 美術研究所の図書・諸資料全部を山形県酒田市本町1丁目日本間家倉庫3棟に疎開した。

同 年7月～8月 酒田市本間家倉庫に疎開した図書資料を爆撃の危険を避けるため、さらに酒田市外牧曾根村松沢世喜雄家倉庫・観音寺村村上家倉庫・大沢村後藤作之

承家倉庫にそれぞれ分散疎開した。

同21年3月29日 酒田市疎開中の図書・諸資料等の東京向け発送を終了した。

同 年4月4日 酒田市疎開中の図書・諸資料等が東京に到着し引揚げを完了した。

同 年4月16日 東京都西多摩郡小宮村谷間家倉庫に疎開中であった黒田清輝作品並びに写真原版の引揚げを完了した。

同22年5月3日 美術研究所官制が廃止され、国立博物館官制が制定された。美術研究所は同館の附属美術研究所となった。

国立博物館に保存修理課発足。同課内に保存技術研究室を置いた。これが保存科学部の前身である。昭和23年度より専任の職員を配置し、研究を開始した。研究室は国立博物館本館地下の修理室の一室(66㎡)に設けた。

同 24年4月 本年度から科学研究費により光学的方法による美術品の鑑識に関する研究が開始された。

同25年8月29日 文化財保護法の制定に伴い、美術研究所は文化財保護委員会の附属機関となった。

昭和25年9月15日、文化財保護委員会事務局設置にともない、保存科学研究室は国立博物館保存修理課から文化財保護委員会事務局保存部建造物課に所属換えとなった。

同26年1月31日 美術研究所組織規程(昭和26年文化財保護委員会規則第5号)が定められ第一研究部・第二研究部・資料部・庶務室が置かれた。(昭和25年8月29日から適用)

同27年4月1日 東京文化財研究所組織規程(昭和27年文化財保護委員会規則第4号)が定められ、美術部・芸能部・保存科学部・庶務室の3部1室が置かれ、美術研究所組織規程が廃止された。

また文化財保護委員会事務局保存部建造物課保存科学研究室も廃止された。

同 年7月1日 芸能部研究室として東京芸術大学音楽学部邦楽科教室2室を同大学から借用し、研究を開始した。

同28年4月26日 保存科学部研究室として、東京国立博物館構内の倉庫132㎡を改造のうえ、移転した。

同29年7月1日 東京文化財研究所組織規程の一部が改正され(昭和29年文化財保護

## 沿 革

委員会規則第1号), 東京国立文化財研究所となった。

同32年3月28日 東京国立博物館構内に木造, 外部鉄網モルタル塗, 平家建,  $8\text{ m}^2$ の保存科学部の薬品庫が竣工した。

同 年11月30日 従来の2階建書庫のうえに更に1階を増築3階建とし, 増築分延面積 $71\text{ m}^2$ が竣工した。

同34年4月30日 国立文化財研究所研究受託規程(文化財保護委員会告示第14号)が定められ, この年度から受託研究が開始された。

同36年9月16日 東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され(昭和36年文化財保護委員会規則第1号), 従来の庶務室は庶務課となった。

同37年3月31日 東京国立博物館構内に保存科学部庁舎(保存科学部実験室)として, 鉄筋コンクリート造2階建延面積 $663\text{ m}^2$ の建物1棟が竣工した。

同 年7月1日 東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され(昭和37年文化財保護委員会規則第1号), 新たに保存科学部に修理技術研究室が置かれた。

同 年7月20日 芸能部研究室は, 保存科学部庁舎の竣工に伴い, 旧保存科学部庁舎に移転した。

同43年6月15日 文部省設置法の一部が改正され(昭和43年法律第99号), 本研究所は文化庁附属機関となった。

同44年8月23日 保存科学部庁舎に隣接して新営される別館庁舎(延 $1,950.41\text{ m}^2$ )の起工式が行われた。

同45年3月25日 前記の別館が竣工したので, 同年5月26日竣工式が行われた。

同45年4月22日 芸能部は, 別館3階に移転した。

同45年5月8日 保存科学部は, 別館の地階～2階に実験用機械類の移転据付を終った。

同45年6月29日 保存科学部庁舎の1階の模様替工事に着手し, 同年10月15日工事が終了した。

同 年11月2日 所長及び庶務課は, 本館から保存科学部庁舎の1階に移転した。

(本館は, 美術部庁舎となる。)したがって研究所の所在地表示は「12番53号」を「13番27号」に変更された。

同46年4月1日 保存科学部庁舎及び別館の敷地 $2,658\text{ m}^2$ を東京国立博物館から所管

換された。

同48年4月12日 文部省設置法施行規則の一部が改正され(昭和48年文部省令第6号)新たに修復技術部が設けられ4部1課となり、修復技術部に第一修復技術研究室及び第二修復技術研究室が置かれ、保存科学部修理技術研究室は廃止された。

同52年4月18日 文部省設置法施行規則の一部が改正され(昭和52年文部省令第10号)情報資料部の新設により5部1課となり、情報資料部に文献資料研究室及び写真資料研究室が置かれ、美術部資料室は廃止された。

同53年3月20日 本館構内の写場等(木造平家建延面積144㎡)を取りこわし、情報資料部研究棟として、鉄筋コンクリート造、地下1階、地上3階、延面積565.95㎡の建物が竣工した。

### 3 歴代所長(昭和5年～昭和53年)

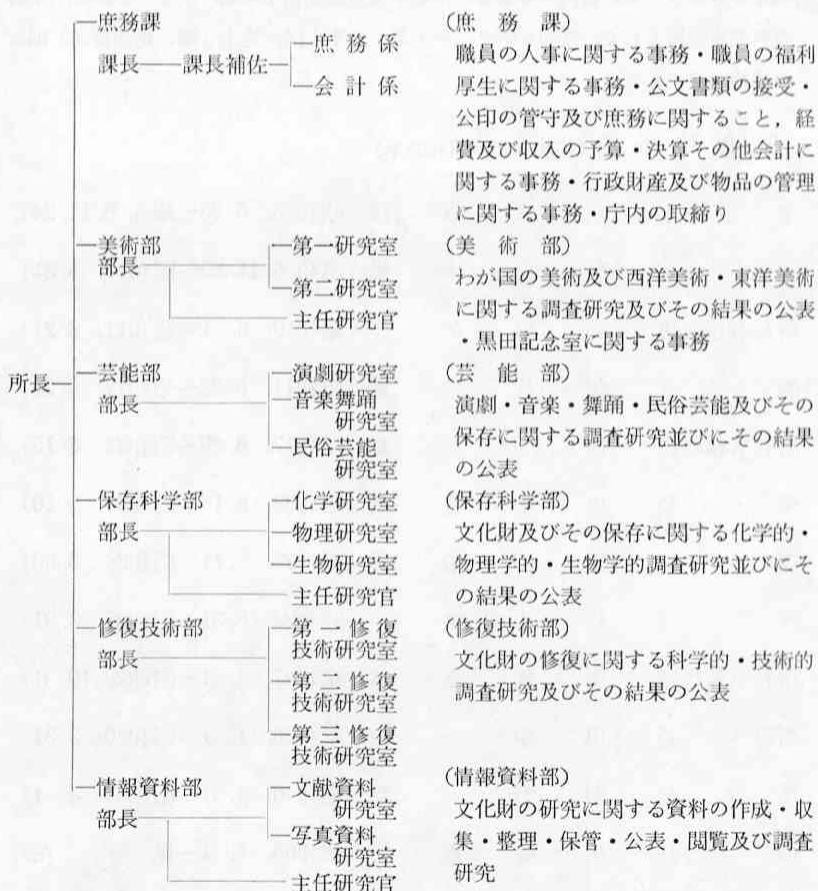
主 事	正 木 直 彦	(昭和 5. 6. 28～昭和 6. 11. 24)
主 事	矢 代 幸 雄	(昭和 6. 11. 25～昭和10. 5. 31)
所長事務取扱	和 田 英 作	(昭和10. 6. 1～昭和11. 6. 21)
所 長	矢 代 幸 雄	(昭和11. 6. 22～昭和17. 6. 28)
所長事務取扱	田 中 豊 藏	(昭和17. 6. 29～昭和22. 8. 15)
所 長	田 中 豊 藏	(昭和22. 8. 16～昭和23. 5. 10)
所 長 代 理	福 山 敏 男	(昭和23. 5. 11～昭和24. 8. 30)
所 長	松 本 栄 一	(昭和24. 8. 31～昭和27. 3. 31)
所長事務代理	矢 代 幸 雄	(昭和27. 4. 1～昭和28. 10. 31)
所 長	田 中 一 松	(昭和28. 11. 1～昭和40. 3. 31)
所 長	関 野 克	(昭和40. 4. 1～昭和53. 4. 1)
所 長	伊 藤 延 男	(昭和53. 4. 1～現 在)



## Ⅱ 設立目的と機構

東京国立文化財研究所は、文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行うことを目的として設立された文化庁の附属機関である。その機構等は次のとおりである。

### 1 機 構



## 2 職種別予算定員

区 分	52 年 度	53 年 度
指 定 職	1	1
所 長	1	1
行 政 職	11	10
課 長	1	1
課 長 補 佐	1	1
係 長	2	2
専 門 職	3	3
主 任	1	1
一 般 職 員	3	2
研 究 職	35	35
部長等研究員	10	11
室長等研究員	13	12
研 究 員	12	12
合 計	47	46

設立目的と機構

3 職 員

昭和54年 3 月30日現在

所 属	官 職 名	氏 名
所 属	文 部 技 官, 所 長	伊 藤 延 男
庶 務	文 部 事 務 官, 庶 務 課 長	松 原 尚 躬
	文 部 事 務 官, 庶 務 課 長 補 佐	西 山 口 博
庶 務 係	文 部 事 務 官, 庶 務 係 長	出 松 小 太 郎
	文 部 事 務 官, 庶 務 係 員	松 本 多 賀 子
会 計 係	文 部 事 務 官, 会 計 係 長	斎 藤 忠 義
	文 部 事 務 官, 会 計 主 任	花 岡 隆 生
	文 部 事 務 官, 会 計 係 員	正 藤 村 ひ ろ 多
	事 務 補 佐 員	中 平 林 喜 一
	技 能 補 佐 員	高 成 塚 上 正
	作 業 補 佐 員	大 川 村 悦
美 術 部	文 部 技 官, 美 術 部 長	田 柳 澤 川 和
	文 部 技 官, 主 任 研 究 官	柳 猪 川 実 里
	文 部 技 官, 主 任 研 究 官	猪 田 陰 宮 鶴
	文 部 技 官, 主 任 研 究 官	田 宮 関 田
	文 部 技 官, 主 任 研 究 官	三 輪 英 治
	文 部 技 官, 主 任 研 究 官	三 佐 藤 道
第 一 研 究 室	文 部 技 官, 第 一 研 究 室 長	羽 田 本 吾
	文 部 技 官, 研 究 員	松 本 木
第 二 研 究 室	文 部 技 官, 第 二 研 究 室 長	三 輪 英 治
	文 部 技 官, 研 究 員	三 佐 藤 道
芸 能 部	文 部 技 官, 芸 能 部 長	羽 田 本 吾
演 劇 研 究 室	文 部 技 官, 演 劇 研 究 室 長	松 本 木
	文 部 技 官, 研 究 員	三 輪 英 治
	調 査 研 究 員 (非)	羽 田 本 吾
音 楽 舞 踊 研 究 室	文 部 技 官, 音 楽 舞 踊 研 究 室 長	松 本 木
	文 部 技 官, 研 究 員 (非)	三 輪 英 治
	調 査 研 究 員 (非)	三 佐 藤 道
民 俗 芸 能 研 究 室	民 俗 芸 能 研 究 室 長 事 務 取 扱	羽 田 本 吾
	文 部 技 官, 研 究 員	三 輪 英 治

設立目的と機構

所 属	官 職 名	氏 名
保 存 科 学 部	調査研究員(非)	仲 井 幸 二 郎
	文 部 技 官, 保存科学部長	江 本 義 理 子
	文 部 技 官, 主任研究官	見 城 敏 子 夫
	文 部 技 官, 主任研究官	門 倉 武 夫 夫
	化学研究室	馬 渕 久 義 夫
	物理研究室	江 本 義 理 郎
	文 部 技 官, 研 究 員	石 川 陸 郎
	文 部 技 官, 研 究 員	三 浦 定 俊 夫
	生物研究室	文 部 技 官, 生物研究室長
	調査研究員(非)	新 森 八 郎
修 復 技 術 部	文 部 技 官, 修復技術部長	田 辺 三 郎 助
	第一修復技術研究室長	中 里 寿 克
	文 部 技 官, 研 究 員	西 浦 忠 輝
	文 部 技 官, 専 門 職 員	茂 木 曙 曜
	第二修復技術研究室長事務取扱	田 辺 三 郎 助
	文 部 技 官, 研 究 員	増 田 勝 彦
	第三修復技術研究室長	樋 口 清 治
	文 部 技 官, 研 究 員	青 木 繁 夫
	情報資料部長	久 野 健 綏
	文 部 技 官, 主任研究官	江 上 野 ア
情 報 資 料 部	文 部 技 官, 文献資料研究室長	上 野 ア
	文 部 技 官, 研 究 員	米 倉 迪 夫
	写真資料研究室長	関 口 正 之
	文 部 技 官, 研 究 員	河 野 元 昭
	文 部 技 官, 専 門 職 員	橋 本 弘 次
	文 部 技 官, 専 門 職 員	市 川 和 正
	文 部 技 官	野 久 保 昌 良

### Ⅲ 土地・建物

本研究所の主な建物は、東京都台東区上野公園12番53号所在の本館と、上野公園13番27号所在の保存科学部実験室及び別館である。

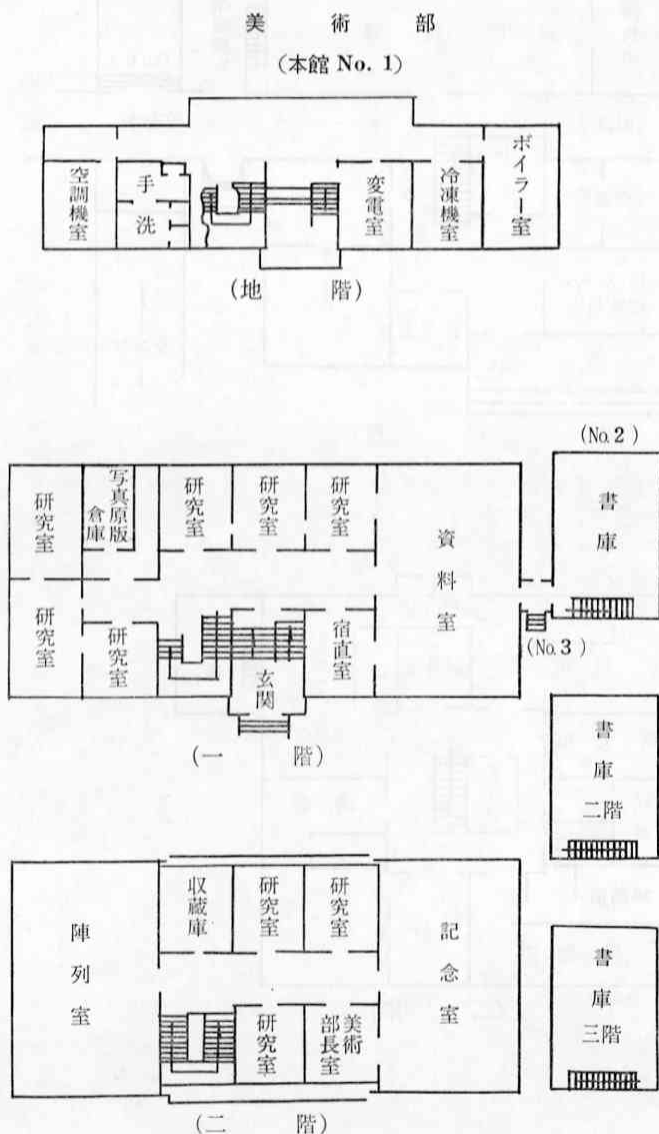
土地は、本館の敷地1,457㎡保存科学部実験室及び別館の2,658㎡敷地の計4,115㎡である。

なお、建物の面積・構造等は次のとおりである。

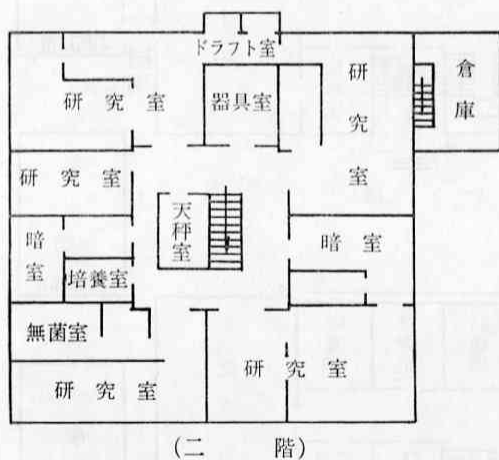
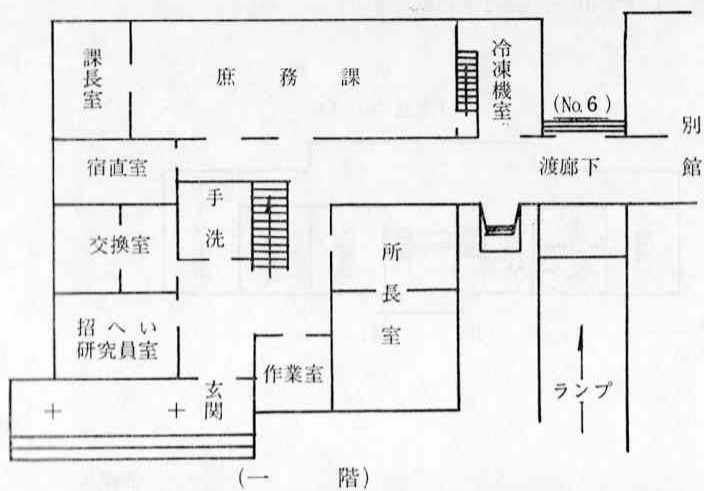
#### 1 建物の面積・構造一覧

No.	名 称	種目・ 構 造	建面積 延面積	建 築 年月日	No.	名 称	種目・ 構 造	建面積 延面積	建 築 年月日
1	本 館	事務所建 RC. 地上 2階・地下1階	468.26 1,192.72	昭 3. 8.30	5	別 館	事務所建 RC. 地下 1階地上3 階塔屋付	462.75 1,950.41	昭 45. 3.25
2	書 庫	倉 庫 建 RC. 3階	64.63 201.80	昭 10. 1.25 (32.11.30) (3階増築)	6	渡廊下 (別館)	雑 屋 建 鉄 骨 造 平 家	27.60 26.60	〃
3	渡廊下 (書庫)	雑 屋 建 RC. 平家	4.90 4.90	昭 10. 1.25	7	情報資料 部研究棟	事務所建 RC. 地下 1階地上 3階	175.60 565.95	昭 53. 3.20
4	保存科学 部実験室	事務所建 RC. 2階	338.44 684.91	昭 37. 3.28					

2 建物の平面図（各庁舎の縮尺不同）

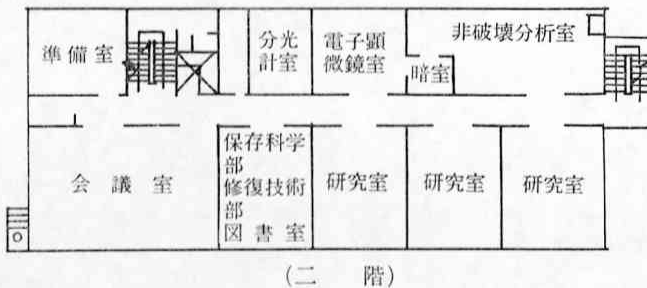
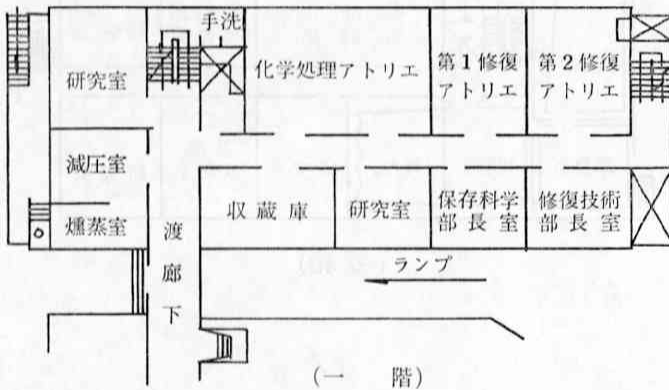
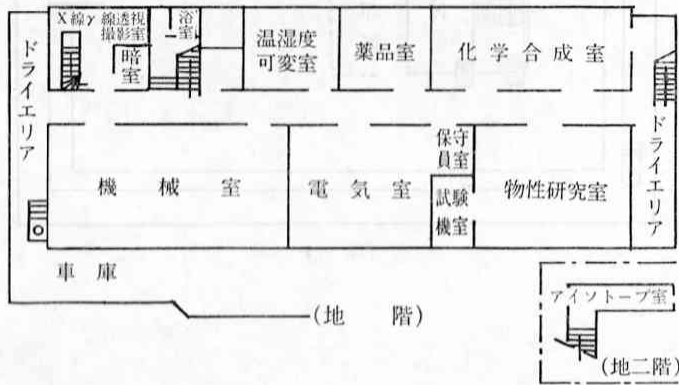


庶務課・保存科学部（実験室 No. 4）



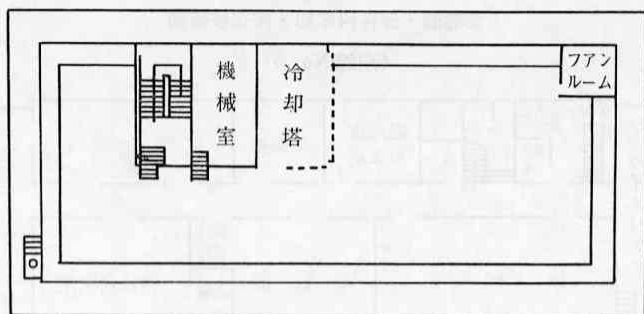
芸能部・保存科学部・修復技術部

(別館 No. 5)

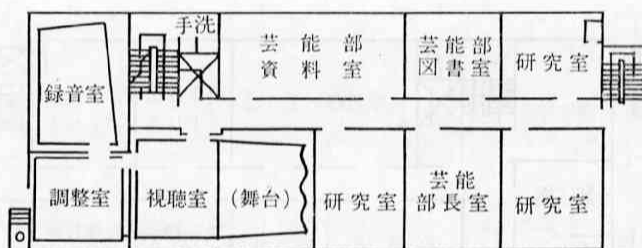




土地・建物

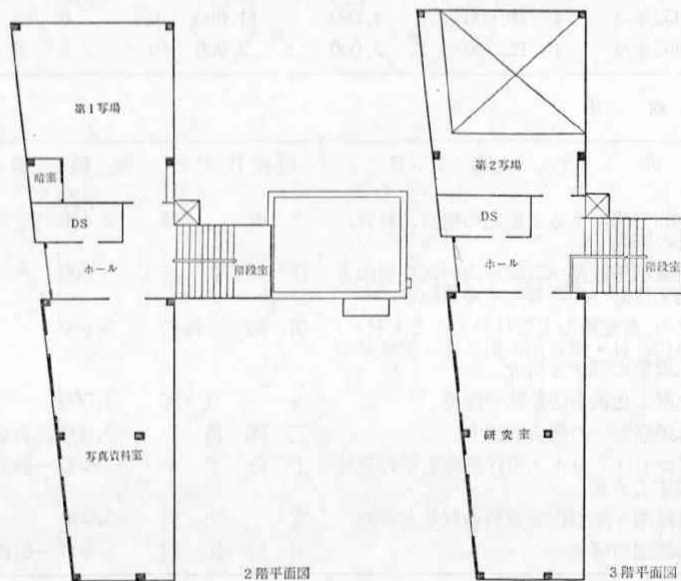
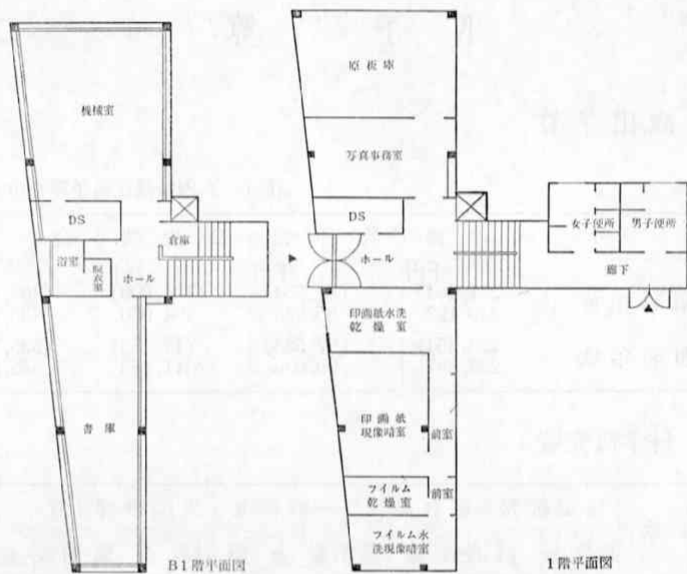


(屋 上)



(三 階)

情報資料部 (No. 7)



## Ⅳ 予 算

### 1 歳出予算

注（ ）内は補正後予算を示す。

区 分	人 件 費	物 件 費	施 設 費	合 計
	千円	千円	千円	千円
昭 和 52 年 度	(221,464) 246,192	(84,254) 85,953	(104,000) 104,000	(409,718) 436,145
昭 和 53 年 度	(226,454) 235,397	(97,583) 99,036	(11,153) 11,153	(335,190) 345,586

### 2 科学研究費

区 分	特 定 研 究		総 合 研 究		一 般 研 究		奨 励 研 究		合 計	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
		千円		千円		千円		千円		千円
昭和52年度	4	10,600	1	4,500	7	11,090	0	0	12	26,190
昭和53年度	4	12,700	1	3,000	3	3,900	0	0	8	19,600

#### 内 訳

研 究 題 目	研究代表者	金 額	摘 要
科学的方法による古彫刻の構造、材質、技法の研究	久 野 健	千円 2,400	特定研究(1)
新設展示施設及び収蔵庫内の汚染現象と収納文化財への影響とその防除法	江 本 義 理	3,200	〃
古美術、古建築の主要材料である木材と、その化粧材・接着剤の耐久性・強度及び劣化現象に関する研究	田 辺 三郎助	3,600	〃
文化財の虫微害防除法の開発	森 八 郎	3,500	〃
日本民謡歌詞の総合的研究	三 隅 治 雄	3,000	総合研究(A)
戦後における日本・東洋美術史学の発達に関する研究	上 野 ア キ	400	一般研究(A)
中世絵画・彫刻作家資料の収集と研究	宮 次 男	3,000	〃
採幽縮図の研究	河 野 元 昭	500	一般研究(C)

## V 調 査 研 究

### 1 所 長

#### (1) 日本建築史の研究

従来よりの継続として行っているもので、本年度は奈良・平安時代に重点を置いた。

#### (2) 日本建築構造技法の研究

従来よりの研究継続を行うとともに、特別研究古美術（研究代表者田辺三郎助）の一部として古建築構造材の力学的研究に参加した。（45ページ参照）

#### (3) 文化財保護制度史研究

従来よりの継続であって、従来の資料を整理し、次の課題への準備とした。

#### (4) 年輪年代測定法の基礎的研究

新規に出発した全く未開拓の分野であるので、基礎資料の蒐集につとめるとともに、若干の予備的実験を行った。

### 2 美 術 部

#### (1) 概 要

美術部は日本・東洋の古美術、日本の近代・現代美術とこれらに関連のある西洋美術についての基礎的調査と専門的研究を行っている。美術部は現在2室に分かれ、古美術関係は第一研究室、近代・現代・西洋美術は第二研究室が担当する。

調査研究は、美術部所属研究員の専門領域を中心として実証的に進められているが、学界現下の動向を把握するとともに将来の趨勢を洞察し、方法においても成果に

## 調査研究

においても、基礎的・先駆的役割を果たして、広く学界に寄与すべく努めている。そのため重要な問題に関しては共同研究を行い、また当部独自の光学的研究法を活用し、すでに多くの成果を収めた。本年度より4カ年計画で情報資料部と共同の特別研究「落款・印章・賛文・銘記の研究」を行い、これに関する資料収集を推進している。

これらの業績は当部の機関誌「美術研究」（昭和7年創刊）に発表し、大部の成果は臨時単行の研究報告書として刊行している。またわが国美術界の全般にわたる動向を調査し、客観的資料の提供を主眼とした「日本美術年鑑」を編集発行している。

以上のほか、調査研究成果の一部を広く一般の理解に資するため、毎年1回公開学術講座を開催している。

黒田清輝の遺産と遺作の寄附に基づいて創立された、美術部（旧美術研究所）の黒田記念室は、黒田清輝の作品その他関係資料を保管し、毎週一回、一般に公開している。

## 第一研究室

第一研究室の研究員は、日本及び東洋諸地域の古美術について、各々専門とする領域と時代を中心に調査研究を進め、主要問題を捉えた共同研究を行い、また常に精密な基礎資料の収集に努めている。その研究課題と調査研究内容は(2)研究調査活動の項に示す通りである。

文部省科学研究費による共同研究としては「科学的方法による古彫刻の構造、材質、技法の研究」特定研究Ⅰ・代表者 久野健、「戦後における日本・東洋美術史学の発達に関する研究」（一般研究A・代表者 上野アキ）、及び「中世絵画・彫刻作家資料の収集と研究」（一般研究A・代表者 宮 次男）の一部を担当実施したほか、他機関の科学研究費による特定研究「科学的方法による東洋古代中世絵画の材質・技法に関する研究」（代表者 東京大学教授秋山光和）、海外学術調査「インド・イラン混成文化圏における大乗仏教美術の初期展開に関する学術調査」（代表者 成城大学教授高田修）に参加した。

## 第二研究室

明治以降美術史の調査研究、並びに現代美術の動向に関する資料の収集と調査を行

っている。前者については時代的に西洋美術の影響が強いことから、それとの比較研究を進めている。

現代美術の動向に関する調査は、集積した年度資料を整理し、その結果を「日本美術年鑑」として毎年公刊してきているが、本年度は昭和50年及び51年(各1月～12月)の内容を盛った昭和51年並びに52年版の各版を二次に互り刊行し、引つづき昭和53年版の編集に着手した。

また本年は、黒田清輝巡回展(千葉)が実施され、本展開催にともなう研究事務(作品選定、カタログ制作、講演会他)については、第二研究室がこれに当り、進捗させた。

## (2) 研究調査活動

### A 一般研究

#### 1. 日本彫刻史の研究

##### (1) 古代彫刻史の研究

木心乾漆像の奈良興福院阿弥陀三尊像、額安寺虚空蔵菩薩像、京都神護寺薬師如来像の調査・撮影に参加した。また、塑像については観世音寺の断片の調査を行った。さらに古代彫刻史研究の一環として、中国北魏後期の大原美術館石造三尊像その他の調査を行った。(猪川)

##### (2) 平安鎌倉時代彫刻史の研究

福岡円通寺旧蔵釈迦如来像、ほか太宰府近辺の彫刻及び、佐賀岩蔵寺像等の調査を行った。在銘像では荏柄天神像、京都仲禅寺仁王像ほかの調査を行った。(猪川)

##### (3) 尊像別分類による彫刻の研究

香川観音寺ほかの二十余例の釈迦涅槃の彫像の調査を完了し、各像についての調査報告を研究会で発表した。(猪川)

#### 2. 日本古代中世絵画史の研究

##### (1) 絵巻物研究

概要においてのべた科学研究費による一般研究(A)との関連で、室町時代土佐派の作品について調査するほか、北村家本「中殿御会図」について、諸模本の照合、他の似絵遺品との比較等を行い、北村家本の似絵絵巻における位置づけを試みた。また、ア

## 調査研究

メリカ合衆国他に流出した絵巻物や奈良絵本を調査した。(宮)

### (2) 仏涅槃図の研究

前年度に引き続き、京都国立博物館「涅槃図の名作展」出陳作品、特に橋寺本の調査。(柳沢)

### (3) 密教絵画の研究

日野原家十一面観音、某家孔雀明王等の調査と図像学的な研究。(柳沢)

### (4) 鎌倉時代絵画の作家研究

別項共同研究の中世絵画作家研究の一部として、堯尊筆聖徳太子勝鬘經講讀図及び蓮池図(共に法隆寺蔵)、堯儼筆板絵神像(葉師寺蔵)等の調査。(柳沢)

### (5) 古代中世絵画の材質・技法に関する研究

別項の特定研究「科学的方法による東洋古代中世絵画の材質・技法に関する研究」に参加し、醍醐寺五重塔板絵の三断片、東寺五大尊等の調査と有機色料について研究を進めた。(柳沢)

### (6) 在米日本仏画の研究

ハーバード大学ローゼンフィールド教授らと共同して、ボストン美術館をはじめアメリカ各地の美術館、個人所蔵作品の調査と研究を実施。(柳沢)

## 3. 近世絵画史の研究

### 江戸洋風画の研究

前年度に引き続き、長崎派の画家及び作品の調査を続行、並びに亜欧堂田善についての調査をすすめた。(陰里)

洋風画法による達磨図の調査を行った。(三輪)

## 4. 近代日本美術史の研究

(1) 近代風俗画についての調査研究を昨年度に引き続き行い、中村貞以の伝記資料蒐集、及び明治以降の東京画壇を中心とした婦人像作品をまとめ、それぞれ発表した。(関)

(2) 近代日本画における歴史画についての調査をすすめ、これを前田青邨の歴史画として、その作品とともに発表した。(関)

(3) 近代日本画における主要作家の印譜作成のため、収集実施についての準備と調査を行った。(関・陰里・三輪)

## 5. 中国絵画史の研究

(1) 林維源記念文化財団の招聘により53年7月18日より8月12日迄、故宮博物院収蔵元画、台北市内私人収蔵明清絵画及び近現代中国絵画の調査並びに国立中央図書館、台湾大学図書館において民国期画家資料の調査を行った。(川上・鶴田)

(2) 長崎県立長崎図書館及び東北大学狩野文庫所蔵来舶画人資料の調査を行った。(鶴田)

(3) 大阪・橋本家所蔵来舶画人作品の調査

## 6. 日本近代絵画史の研究

(1) 本研究所所蔵の黒田清輝の作品を中心に主題と図像表現についての研究を続行している。(陰里)

(2) 大正期において極度に個性的な画家とその作品について調査し、その成果の一部を発表した。(陰里)

(3) 明治初期の洋画家百武兼行の画歴の調査を行った。(三輪)

## 7. 美術部工芸史の研究

現在は陶磁・漆工・金工の研究員は不在で、染織専門の主任研究官田実栄子が必要に応じこれらの調査に当たっているが主たる研究題目及び調査活動は下記の通りである。

(1) 近世初期染織品の研究

(2) 小袖の研究

(3) 伝統的染織技術の調査・研究

(4) 上代裂の研究

研究題目の中、特に力を注いでいる「近世初期染織品の研究」に関しては、和歌山市の紀州東照宮伝来服飾類の調査、米沢市の上杉神社蔵の上杉謙信所用袴類及びビロード洋套の調査、宮城県白石市の片倉家伝来陣羽織類の調査研究が昭和52年度に引続く研究として昭和53年度の主なものである。「小袖の研究」は京都国立博物館蔵品・名古屋の徳川美術館蔵品の調査研究を主とし、片倉家伝来黒緇子小袖の修復技術部との共同研究(修復技術上の)を続行する。「伝統的染織技術の調査研究」は長野県の上田と飯田の紬の調査に赴いた外、日本工芸会で昭和53年度から3カ年計画で始めた東博蔵「白地風景模様茶屋染帷子」の復元メンバーになり調査研究記録を担当し、また第15回日本染織展の審査員として加わった。「上代裂の研究」は東博蔵品と昭和53



## 調 査 研 究

年秋の正倉院展出陳染織品の調査を通してすすめた。(田実)

### 8. 和漢書道史の研究

#### (1) 日本書道の美術史学的研究

##### ——日本書道の遺品の精査研究——

円満を旨としたかと思われる平安書道の中で、多少とも筋骨のある書風を以て異彩をみせている若干の書芸人の1人が藤原佐理であって、私の関心を引く。彼れの遺品のうち釈読解義等の基礎にいろいろの難問のある「去夏帖」について想を新らたにして考察し、日本建築史その他にとっても重要な榑(くれ)の単位「村」に逢着し、『正倉院文書』等の広範な調査によって、これに解決を与えた。(田村)

#### (2) 基準古筆切の集録研究

古筆切の採訪・整理は本筋の書道史研究の重要な資料であるのみならず、文学・史学にも貴重な材料を提供するものであるから、諸所の手鑑その他に収められる古筆切の撮影にはじまって、その時代・筆者・品名等を明らかにして分類・整理し、上記諸学の研究者に便を与えようとしている。特に絵巻の詞書を切った古筆切は絵画史研究に不可欠のものであるので、これに注意をむけ、天理・旧松永本原氏物語絵巻について、その断簡をもととする考察をほこした。(田村)

#### (3) 日本書道の文字学的研究

##### ——特に異体字の研究——

前年度に引きつづき作成のカードは年々増加している。(田村)

## B 特 別 研 究

### 「落款・印章・賛文・銘記の研究」

(研究代表者 美術部第一研究室長 宮 次男)

#### 研究目的

本研究は、わが国の中世・近世・近代の絵画・書蹟・彫刻等のうち、落款・印章・賛文・銘記を有する作品を対象として、これらの資料を極力調査収集し、その基礎資料によって、作品の鑑別、真偽判定等を行い、作家研究を推進するものである。

#### 実施要領

1. 中世以降近世までの彫刻作家約 500 人を選びだし、その作品及び関係銘記の資料

を収集整理して研究を行う

2. 東京国立文化財研究所が現在所蔵している近世画家等約450人の落款・印章の写真資料を基礎に調査研究をはかるとともに、重要作品及び主要画家等で資料の欠けているものの文献・写真資料の収集・調査を行う。
3. 近代美術の分野では、明治以降主要日本画家の印譜作成を行い、洋画家については主要作品のサイン写真の蒐集につとめ、その成果の一部を得た。
4. この研究は、美術部情報資料部の共同研究により遂行するものである。

### C 科学研究費

#### 「中世絵画・彫刻作家資料の収集と研究」

(一般研究(A) 研究代表者 宮 次男)

##### 分担課題

- (1) 仏師及びその系譜に関する研究(久野・猪川)
- (2) 絵仏師の伝記並びにその流派の研究(柳沢・関口)
- (3) 絵師の伝記とその画系についての研究(宮・田村・江上・米倉)
- (4) 水墨画家伝の研究(鶴田)

本研究は、わが国中世(鎌倉～室町時代)の絵画・彫刻等の作家に関し、作品は勿論、信頼できる文献、造像銘、奥書、賛、落款、印章等から、その作家に関する資料を収集し、整理研究することによって、当該年代の作家の伝記・系譜・作品等の実体を明らかにすることを目的とするものである。

1. 彫刻分野では文献の収集と平行して、本年度も仏像の胎内銘や納入物に記された作家名及びその伝記の収集を行った。従来紹介されている胎内銘等の収集はほぼ終わったので、本年度は、それら所蔵寺院から直接写真資料の提供を受け、それを複写して資料の充実をはかり、また撮影可能なものは、新しく撮影した。その他、京都における院派の在銘彫刻の調査をはじめ、兵庫県の鶴林寺、相応峯寺、浄土寺の諸像、大阪壺井八幡宮神像、神奈川荏柄天神像等、この時代の遺品を現地調査した。

2. 絵画分野では、筆者の判明する作品の調査・撮影に重点を置いた。絵仏師関係では13世紀前半の代表的絵仏師尊智筆と比定される「聖徳太子勝鬘經講賛図」1幀と「蓮池図」2曲屏風(共に法隆寺蔵)、また同時代の南都絵師亮尊筆「聖皇曼荼羅」

## 調査研究

(建長7年、法隆寺蔵)及びその弟子堯徽筆「板絵神像」6面(永仁3年、葉師寺蔵)に関し調査・撮影、その画風について検討を加えた。絵師関係では、伝藤原信実筆の「隨身庭騎絵巻」と「中殿御会図」(摸本)を中心に、似絵の画系についての研究を推めた。また、土佐光信筆の「北野天神縁起」3巻(北野天満宮蔵)、土佐光茂筆「当麻寺縁起」3巻(当麻寺蔵)、狩野・土佐合筆「当麻寺縁起」3巻(奈良個人蔵)等の調査・撮影を行い、土佐派様式の展開について検討を加えた。

## 3 芸能部

### (1) 概要

芸能部は、日本の伝統芸能の保存に資するために必要な基礎的研究を行うことを目的とし、演劇研究室・音楽舞踊研究室・民俗芸能研究部の三室より構成されている。

芸能部の研究目標としては、諸芸能の理念・構造・技法及びその継承保存に関する研究などがあり、その研究に必要な資料の収集・整備・記録の作成としての撮影・録音・録画などの作業を行う。また研究の結果は刊行・研究発表会・公開学術講座の開催などによって公表する。

本年度は、共同研究としては「狂言の技法の研究」「陰囃子の構造の研究」「民謡の研究」「民俗芸能の民俗的基盤の研究」等の課題について、研究員が2、3名ずつ組をつくって調査研究を行った。また、日本学術振興会の研究費による国際共同研究「インドネシア音楽の民族音楽的研究」の第一次調査としてインドネシア、オーストラリア、ニュージーランドの現地調査を行った。

また、各研究員は個々に研究課題を選んで実証的な調査活動を行いつつあるが、いずれもそれは文化財行政に直接寄与する基礎的な調査研究であると同時に、従来立ち遅れ気味のおが国の芸能研究を推進せしめ、日本芸能学の樹立に貢献する力ともなる研究である。特に、演劇研究室を中心とした寺院行事の研究や、音楽舞踊室におけるメログラフを用いての長唄・民謡や祭囃子の分析的研究や、民俗芸能研究室における芸能の伝承方法の研究などは従来の学界には求められなかった先駆的研究である。

刊行物としては『芸能の科学』10「芸能論考V」(執筆 山本・柿木・中村・三隅・羽田)を刊行した。

## 芸 能 部

恒例の公開講座は、「箏の技法」をテーマとして53年12月に朝日講堂で開催し、また研究者を対象とした連続研究発表会は「法会と芸能」（担当佐藤）のテーマで53年7月に行った。また、視聴室舞台において、実技分析と古典研修を目的とした「太神楽研究会」を太神楽曲芸協会と協力して行い、また、各研究室において、外部研究者、芸能伝承者等の参加を得て、「能楽技法研修会」「狂言伝書輪講会」「民謡研究会」等の研究会を毎月定期的に行った。

### 演劇研究室

演劇研究室は、日本古典演劇について芸能学的・演劇学的に調査・研究を行い、またこれら諸芸能の周辺にあって伝統芸能の成立に深い関係を持つ諸分野についても、調査研究を進めている。

本年度は、個人研究として「寺院芸能の研究」「能の演出史の研究」を行い、共同研究として「狂言の技法の研究」、他の研究室との協力により「陰囃子の構造の研究」を行った。

### 音楽舞踊研究室

日本の音楽及び舞踊について、芸術学的音楽学的調査・研究を行い、また、これら伝統芸能の成立に深い関係を持つ周辺分野についても調査・研究を進めている。

本年度の個人研究は「古典箏曲及び現代箏曲の技法」「日本の箏とアジアのツィター属」「五木の子守唄に見る子守唄の原理」が行われた。

また国内調査としては徳川家所蔵の資料を中心とする「琉球式楽関係資料の調査」を行い、海外調査としては日本学術振興会の研究費による国際共同研究「インドネシア音楽の民族音楽学的研究」の第一次調査として、日本の歌の源流を探るべくインドネシア、オーストラリア、ニュージーランドの現地調査を行った。

また海外での優れた舞踊譜の研究として「Benish Nofation」の予備研究を行った。

### 民俗芸能研究室

全国各地に分布伝承する民俗芸能を対象とし、それらの芸能の保存・活用に資するために必要な研究を行っている。本年度は、一般研究として「民俗芸能の民俗的基盤

## 調 査 研 究

の研究」「民俗芸能伝承方法の研究」「民謡の研究」「話芸・寄席芸の研究」「風流系太鼓踊の研究」「太神楽の技法及び演出の研究」を行った。文部省科学研究費による研究としては「日本民謡歌詞の総合的研究」(総合研究研究(A)代表者三隅治雄)を昨年に引き続き第2年度調査研究を実施した。また、例年行われる全国及び地方別の民俗芸能大会に出場した芸能の撮影録音を行った。

## (2) 研究調査活動

### A 一般研究

#### 1. 民謡の研究

日本の民謡の研究において、民謡の芸謡的要素を無視してはその全き姿をとらえることができないという観点より、上代から近世に至る日本の歌謡伝承の上に占める芸謡の位置を究明する目的をもって、前年度に引き続き近世歌謡の分析を行い、あわせて童唄の遊戯唄の芸謡的要素についての調査研究を行った。また毎月一回定期的に外部研究者及び演奏家を招いて研究会を催し、各種の討論討議を行っている。(仲井・三隅・柿木・中村)

#### 2. 民俗芸能の民俗的基盤の研究

芸能を、その行われる季節・場所・参加者(演者・観客を含む)などの面から取りあげる連続した研究の一環として、「道中の芸能」に関する調査研究並びに「道中の芸能」を生む基盤となった、とこよ信仰とそのとこよ神送迎の祭儀に関する調査研究を行った。(三隅・仲井)

#### 3. 話芸・寄席芸の研究

落語を主として話芸・寄席芸を対象とする近世芸能の研究を安原コレクション邦楽レコードの整理を通じ続行中である。(三隅・仲井)

#### 4. 民俗芸能伝承方法の研究

各種民俗芸能の伝承方法について資料の収集・分析を行った。(三隅・中村)

#### 5. 風流系太鼓踊の研究

じんやく踊の資料収集・その分析の結果をまとめて芸能の科学に発表した。(中村)

#### 6. 太神楽の技法及び演出の研究

毎月一回の演技者との研究会の成果として芸術祭参加公演を行った。(中村)

## 7. 寺院行事の研究

寺院行事が内包する多種多様な要素の中から芸能的要素を抽出し、各宗派にわたる総合的比較研究を行い、その変遷・分化をあとづけることを一貫した目的とするが、本年度は「悔過会」の史的変遷の研究に主眼を置き、六国史をはじめ公卿日記等の史料に記載された悔過会記録の調査を行った。また41年度以降継続的に実施している「東大寺修二会の研究調査」については、54年度刊行予定の研究調査録第三冊のための補足調査を行った。(佐藤)

## 8. 狂言の技法の研究

前年度に引き続き、諸台本に記載された狂言の囃子事について調査した。また、部外の研究者と共同で、真享松井本の間狂言台本を輪読、狂言の演出の時代的変遷・流派間の異同について調査・検討中である。(羽田)

## 9. 陰囃子の構造の研究

歌舞伎音楽の重要な要素である陰囃子の構造の研究。基本資料である付帳(実演の手順の記録)の中から通行演目120種に関するものを選び、その内容をカード化して分析を行ないつつある。(横道・羽田)

## 10. 能の演出史の研究

能の演出の変化を面・装束・型・囃子などの構成要素の変遷をたどることによってあとづけることを目的としたもので、本年度は昨年に引き続き“装束”に関する調査を行った。(松本)

## 11. 伝統歌曲の音楽分析的研究

伝承・記録・保存のための基礎研究として伝統歌曲をメログラフを用いて音楽的に分析し、その音楽性を音楽学的に解明するもので、本年度は謡曲の「井筒」及び民謡「五木の子守唄」の記録作製と分析が行われた。(柿木)

## 12. 琉球式楽の研究

徳川家所蔵の史料及び楽器を調査することによって、今は失なわれている中国系の合奏音楽である琉球式楽の実態を探索した。

## 13. 箏曲技法の調査

生田流と山田流の箏曲における古典的技法を比較調査し、各技法や名称の異同を明らかにした。また、野坂恵子、宮下伸両氏の協力により、現代箏曲に定着しつつある

## 調査研究

技法を調査記録した。(柿木・山本)

### B 日本学術振興会研究費

#### インドネシア音楽の民族音楽学的研究

(国際共同研究 研究代表者 柿木吾郎)

日本の民謡を中心とする伝統歌曲には、アジア各地の歌と強い近似性を示すものが少なくないが、特にインドネシア（スンダ地方）の歌は音組織や旋律法の点で本土や琉球地方の民謡とよく似ている。本研究は現地の研究者と協力して、この問題を解明しようとするもので、まずインドネシアで現地調査を行い、また南太平洋地域でのインドネシアの歌の音楽性を明らかにするために、周辺地域としてオーストラリア北部（アーネムランド）及びニュージーランドをも現地調査した。(柿木・三隅・橋本・山本)

## 4 保存科学部

### (1) 概要

文化財の材質・構造に関する科学的分析研究、並びに文化財のおかれている保存環境の自然科学的研究を行い、これらを基礎として文化財の保存に関する技術的研究を行っている。研究の成果は文化財の指定・保存対策・修復処置の基礎資料として役立てられている。また文化財の年代測定・産地推定の基礎的研究も手掛けている。

研究組織は化学研究室、物理研究室、生物研究室の3室からなっている。

調査研究の結果は、修復技術部との共同の機関誌「保存科学」により公表される。

#### 化学研究室

文化財及びその保存に関する化学的調査研究（分析化学的調査研究を含む。）並びにその結果の公表を職務としている。

具体的には微量分析及び非破壊分析による無機及び有機物質の材質・技法・劣化に関する研究、展示・保存環境における汚染因子の究明とそれらの文化財への影響に関する研究及び材質劣化防止に関する研究を行っている。

## 物理研究室

文化財及びその保存に関する物理的調査研究並びにその公表を職務としている。文化財自体の構造・強度等の力学的試験を行い、X線、 $\gamma$ 線のラジオグラフィーによる内部構造、欠陥、虫害、腐朽の解明を行っている。また赤外線テレビによる銘記、下絵等の判読等にリモートセンシングの手法を取り入れる試みを行っている。

また保存環境に関し、採光、照明、温湿度等の影響とその防止の研究を行う他、展示、収蔵、梱包輸送の際の適正条件の設定と調節技術を開発し、新施設を使用する際の必要な処置の研究を行っている。

## 生物研究室

文化財及びその保存に関する生物学的調査研究並びにその公表を職務としている。黴・細菌・昆虫等による文化財の被害調査並びに黴・細菌・昆虫等の採取・培養・同定及びそれらの殺菌・殺虫等の防除用薬剤の選定と方法の研究と、実施の指導を行っている。

以上の各研究室内の担当研究員の専門分野の基礎的研究のほか、複合的な判断、処置を必要とする研究対象に対しては部内、部外（他研究機関を含む）との共同研究が行われている。

特別研究「石造文化財の保存、修復に関する科学的研究」は修復技術部との共同研究で、3カ年継続の第2年次として、石の材質及び劣化現象の調査、研究を行った。

受託研究は、「史跡虎塚古墳彩色壁画保存のための調査研究」及び修復技術部と共同の、「国宝、重文日光社寺建造物に関する研究」が行われた。

科学研究費による研究は、特定研究「自然科学の手法による遺跡・古文化財の研究」において、計画研究・3カ年継続の第3年次として保存科学部門に当部研究者を代表者とする2課題、及び材質、技法、産地部門にそれぞれ分担参加している。

## (2) 研究調査活動

### A 一般研究

#### 1. 文化財の材質構造等に関する研究

##### (1) 非破壊分析・微量分析



## 調査研究

### 1) 古代ガラスの研究

東洋古代ガラス49点をプラズマ発光分光分析器（ICP）により分析。各試料につき18元素の定量を行った。材質技法等を総合的に研究するもので、地域による組成の差異、色と微量元素含有量の相関で考察した。（東博との共同研究）（馬淵）

### 2) 鉛同位体分析

昨年度より引続き、日本、朝鮮及び中国の方鉛鉱につき鉛同位体比の精密測定を行い、データを集積中である。（特定研究「鉛同位体比測定による考古遺物の産地研究—代表者 山崎一雄」の分担研究）（馬淵）

### (2) 年代、産地の標準的試料等の材質に関する分析データの蓄積

三角縁神獸鏡、画像鏡、神獸鏡、獸帯鏡等11面、金銅仏6体、古代ガラス、彩色顔料、出土鋳型、鉦滓等につき、X線分析により材質を分析、技法との関連につき研究を行った。（江本）

### (3) 建造物彩色復元のための顔料材質調査

国宝・京都：本願寺唐門彩色

昨年度に引続き、欄間、唐破風内彫刻、組物等に残存している彩色顔料をX線分析により判定し、復元彩色の資料とした。（江本）

### (4) 和紙の電子顕微鏡写真の撮影による基礎資料の蒐集（門倉）

### (5) 赤外テレビによる古文書の判読

多賀城跡出土の古文書紙片を赤外テレビジョンを用いて撮影し、墨書の判読を可能とした。

江田船山古墳出土鉄剣の銀象ガンを撮影、調査に協力した。（石川）

## 2. 文化財の保存及び展示環境等に関する研究

### (1) 施設内の保存環境の調査

展示室・収蔵庫内の温湿度、照明等の環境の測定、新設展示施設のシーズニングの検討を行い、展示・保存環境の適否に関し調査を実施している。（石川）

1) 静岡：清水市立文化会館

2) 奈良：橿原市千塚史料館

3) 埼玉：東秩父村収蔵庫

4) 愛知：名古屋市立博物館

5) 山口：山口県立美術館

6) 広島：広島県立歴史民俗資料館

7) 群馬：群馬県立博物館

(2) 展示施設の光源の選択

展示に用いる照明光源として蛍光灯が主体となっているが、最近では高圧水銀灯の演色性を良くしたものも使われ始めている。これらの光源の分光特性を測定し、その適否に関し調査研究を行っている。

また白熱電灯を中心に展示を行っている所もあり、熱線による影響を受けぬようフィルターの設定も行っている。(石川)

(3) 外国美術品の国内展示における会場内の保存環境調査及び指導

アンドレ・マルローと永遠の日本展(53年11月～12月於出光美術館)の準備のための温湿度調整と照明の指導を行った。(石川)

(4) 密閉ケース内の微気象変化の対策の研究

湿度調節剤の使用が、ケース内・梱包内の湿度調節に成果を上げているが、粒状のため扱いにくい欠点がある。その欠点解消のために湿度調節剤(ゼオライト、科研ゲル)と和紙との併用による方法の湿度調節能力を検討している。(見城)

(5) アルカリ汚染因子の確認

造りたてコンクリート施設の雰囲気アルカリ性にする汚染因子の実態を究明するため、コンクリート室内雰囲気中のCa, Mgを原子吸光分析により定量を行った。(見城・馬淵)

(6) 環境中の粉じんの研究

パーティクルカウンターによる粉じん粒子の挙動を追究すると同時にアンダーセンサンプラーによって採取した粉じんの組成について、X線マイクロナライザーで分析した。

浮遊粉じんからFe, Mn, Ca, K, Si, Cl, S等を検出しているが、これらの割合は地域・粒子の大きさによって異なる。1 $\mu$ 以上の粒子はCa>K, 小さい粒子はCa<Kであった。

実地調査として、京都妙法院蓮華王院本堂に、銀板をセットしたシャーレを設置し、粉じんの影響について実験中である。

粉じんの防除法としてエアークリーナーによる浄化法を検討し、試験室内に浮遊す

## 調査研究

る粉じんを80%以上除去することに成功した。(門倉)

### 3. 文化財の生物劣化とその防除に関する研究

#### (1) 実態調査と防除対策

文化財に被害を及ぼす生物(微生物や昆虫など)の実態調査は、継続的に実施し、被害の状況に応じて防除対策を検討して助言・指導を行っている。本年度は下記の調査と生物劣化防除を実施した。(新井)

- 1) 天理参考館の密閉燻蒸(53・5)
- 2) 増上寺経蔵及び宝蔵庫の生物被害調査並びに密閉燻蒸(53・5～6)
- 3) イラク国アル・タール遺跡出土遺物の減圧燻蒸(53・5)
- 4) ボストン美術館展において展示ケースに発生した昆虫の調査と対策(53・5)
- 5) 桂離宮解体修理再建材の薬剤処理(53・6)
- 6) 東博に寄贈された屏風等50点の虫害調査と減圧燻蒸(53・7)
- 7) 瑞巖寺障壁画のカビの調査(53・7)
- 8) 米国巡回日本民俗芸術展展示品の被覆燻蒸(国際交流基金による)(53・8)
- 9) 宮内庁書陵部書庫の生物被害調査(53・9)
- 10) 欧州巡回日本木彫展展示品の被覆燻蒸(53・11)
- 11) 新設福岡市立美術館の燻蒸設備設計の検討と指導(53・12)

#### (2) 合成樹脂に発生する黴の原因と対策

貝塚や、住居跡等遺構を保存する場合に合成樹脂で固定する必要がある。本年度から加曽利貝塚で、メチルメタアクリレート(MMA)による貝層並びに住居跡の固定の実験が始められた。この合成樹脂の使用に伴って発生する黴の原因と対策の研究を開始した。(新井)

#### (3) 低毒性防腐・防黴・防虫剤の検討

薬剤の人間に対する安全性の観点から、低毒性の薬剤について、防腐・防黴・防虫効力の検討を行っている。(新井)

#### (4) 燻蒸剤の安全廃棄法として活性炭の有効性についての実験検討(門倉)

### 4. 国宝・高松塚古墳壁画修理事業への協力

本年度より壁画修復処置が再開された。開口時及び閉塞時に石室内環境、壁面状態の調査を行い、作業時の環境保全に関し協力した。(江本)

## 5. 未開口石室内の環境に関する研究

未発掘古墳の石室内の温湿度、空気組成、微生物因子を調査研究し、それらの特性を明らかにすることは、発掘後の環境条件の設定等の保存方法の策定に不可欠である。

機会をとらえて現地調査及び関連の研究を進めている。本年度は下記の古墳で調査を行い、考古学的調査に協力した。

- 1) 茨城 勝田市：十五郎横穴 三基（見城・門倉・新井）

## 6. 考古遺物・遺跡等に関する考古化学的及び保存に関する研究

- (1) 北海道・江差、開陽丸引揚げ遺物の研究

貨幣・分銅・食器類等につき蛍光X線分析（非破壊）により材質研究を行った。

各種遺物の脱塩及び保存処理について指導した。（防錆処理後の状態から）脱塩処理不足を是正し、修復技術部の協力を得て皮革製品の処理法が確立された。（江本）

- (2) 古墳の保存対策

- 1) 熊本：小田良古墳

- 2) 鳥取：梶山古墳

彩色顔料・析出物の分析、埋戻し時及び保存施設の環境保全対策に関し調査、助言を行った。（江本）

- (3) インドネシア・ボロブドール遺跡

修復時に発生した析出物に関し、現地保存科学研究所により採取され、千原大五郎氏（ボロブドール保存委員）が持参、依頼された試料6点について材料分析及び微生物分析を行った。（江本・新井）

- (4) 出土漆紙の調査研究

多賀城跡より出土した漆紙から赤外線TVによって文書の解読を可能にした。また、素材の性状について調査研究を行った。（石川・見城）

## 7. 漆及び漆工品に関する研究

- (1) 漆中の金属を原子吸光分析により定量し、漆の種類、産地の相違の判別を試みた。（見城）

- (2) 建造物の漆塗装にみられる種々の劣化過程を解析し、劣化環境の条件を究明した。（見城）

## 調査研究

(3) 古代漆膜の顕微鏡検査、赤外吸収スペクトル測定、示差熱分析を行い、古代の漆工技法を推定した。(見城)

### (4) 法隆寺献納宝物特別調査(東博)

本年度の技楽面調査に参加し、蛍光X線分析により、非破壊的に彩色顔料・漆下地等の材質判定、赤外TVにより墨書・墨線・下絵等の判別のための撮影を行った。(江本・石川)

## B 特別研究

石造文化財の保存・修復に関する科学研究(3年継続 第2年度 保存科学部  
修復技術部共同研究)

石造文化財に関し、石質の劣化機構の解明、保存管理方法及び強化修復技術の確立を総合的に推進させるのを目的としている。

本年度は下記のように調査研究を行った。

### (1) 石材の標本資料の作成

花崗岩はじめ12種の試料につき、薄片プレパラート、顕微鏡写真、鉱物組成等に関する資料を作成した。(江本)

(2) 化学的劣化に関しては、大分県下8件の磨崖仏周辺の石材試料22点について19元素の放射化分析結果から、石質劣化による化学組成の変化を研究、風化生成物の成分の変化についても分析を行っている。(馬淵・見城)

(3) 生物劣化については、大谷磨崖仏・大谷石の劣化石材の微生物分析を行った。(新井)

(4) 日照、夜間放射の影響を知るため、石材表面の温度勾配を大谷磨崖仏において、測定した。(石川・三浦)

(5) 現状調査は、重文大谷寺磨崖仏、重文箱根石仏群・石塔、史跡奈良春日山、地獄谷石窟仏等につき劣化・破損状況につき調査を行った。

(6) 劣化した石の強化のため、薬剤による含浸処置についての基礎実験として、試験片(大谷石)を各種薬剤(アクリル樹脂、エポキシ樹脂、シリコーン樹脂、水酸化バリウム等)で含浸処理し、それらを人工的に劣化させてその劣化度合を物理的・化学的に検討する試験を実施した。(樋口・西浦)

西ドイツ、プロイセン博物館群ラトゲン研究所（ベルリン）ヨゼフ・リーデラー所長の6月19日より1カ月間の来日（学術振興会招へい）を期に、大分県下・磨崖仏、佐賀県下・装飾古墳、奈良市春日山、地獄谷石窟仏、大谷磨崖仏の現地調査に同行し、本邦石造文化財の実態と保存・修復処置の実際を見学し、ドイツにおける調査法、修復処置法につき、意見交換・討議を行い、種々得る所があり有意義であった。

## C 受託研究

### 1. 史跡虎塚古墳彩色壁画保存のための調査研究（茨城）

前年度に引続き48年9月埋戻し後の石室内環境条件の消長を、4月、7月に調査した。

10月27日～11月1日に、保存施設設計に際し、石室の細部確認、測量、壁画の彩色顔料剥落止めに関する調査のため、石室が開口された。従来のデータの確認と、この調査を機会に行われる一般公開の際、石室の安定と埋蔵時の環境を維持するよう、断熱材を用いた仮設前室施設内で二重ガラス窓を設けて、玄門部で閉塞し、2日間の見学が行われた。1日約4,000人の見学者があった。これらの調査期間を通し、保存科学上の指導、協力を行い、石室内に大きな影響を与えず終了し、再び埋戻された。

調査及び公開中は石室内、前室の温湿度を測定し、前室の加湿等の環境の制御により石室内は、温度16～17℃、湿度ほぼ100%RHを維持し、公開中も大きな変化は見られなかった。開口により石室内の微生物は2～3倍に増加したが、封鎖後の殺菌処置により、埋戻し後33日目の測定時には開口前の状態に戻っており、温湿度も旧態16℃、100%RHに戻り安定していた。

本年度も関連調査として、十五郎横穴群の発掘調査が行われたが、そのうち3基について開口前横穴内環境調査を行った。（江本・新井・見城・門倉）

### 2. 国宝・重文日光社寺建造物の保存に関する研究（栃木）（修復技術部と共同）

(1) 東照宮本殿・透塀の上下長押に施された唐油彩色、生彩色の変褪色の原因究明  
長押上下に設置した手板試料（群青、緑青、黄土、朱、辨柄—平彩色）の2年後の劣化した状態を調査し、朱、緑青の経年変化から光と湿気の関係により、亀甲文の変褪色、剥落が起っていることが予想でき、来年度は湿気・光等に敏感なテストピース

## 調査研究

を選定して調査を行う。

### (2) 建築彩色に発生する糸状菌（カビ）の防除法

1) 修理した建築彩色に着生する糸状菌の防除法として、サイアペンダゾールの0.5%エタノール液の使用を検討してきたが、53年12月完成の五重塔において、実地試験の結果糸状菌の拡大を阻止することを確認した。

2) 膠に薬剤を混合して糸状菌を防止することを検討し、低毒性薬剤のなかから、パラクロロメタキシノール (PCMX) を選定した。

53年度修復の二荒山神社・大国殿の背面・飛檐裏板の胡粉塗装に PCMX を使用し、糸状菌の発生を阻止できることを実証した。(江本・新井・見城・三浦・中里)

### 3. 仙台市伊達政宗墓所出土副葬品の保存処置に関する研究 III (宮城) (修復技術部と共同研究) 43頁参照

## D 科学研究費

### 1. 新設展示施設及び収蔵庫内の汚染現象と収納文化財への影響とその防除法 (特定研究(1) 研究代表者 江本義理)

新営施設内の初期の保存環境に認められるアルカリ性因子の実態の確認と、環境が安定して展示・収蔵に適しているか否かを判定するモニターの作成、及び汚染因子防除法に重点をおいた。

#### (1) 汚染因子の確認

コンクリート雰囲気中の汚染因子として、セメント水和物に関連ある物質である Ca, Mg に着目し、原子吸光分析による定量を行った結果、コンクリート雰囲気 of アルカリ性因子の原因として、コンクリートから放出される Ca が大きく寄与していると判断された。

#### (2) 環境調査用モニター

前年度個々に行った各種テストピースについて、実験庫内で、コンクリート打放し、杉材内装の雰囲気を標準として実験を重ね、変色試験紙他4点を組合せ、各テストピースの変化から環境を総合的に判定するモニターを選定した。特に文化財の材質に与える影響の判定と、学芸員が肉眼で判定できる方法に留意した。

#### (3) 汚染因子の防除法

室内の環境汚染は空調機の運転によって軽減されるが、空調機が設備されていない小規模の収蔵庫に対する対策として、汙過・吸着用の特殊フィルターを装備した空気清浄機「アルサス」を選定、新施設内で試験し、粉塵浄化能力、Ca、Mg量、モニター判定等により効果があることを認め、設置の必要性を確認した。

## 2. 文化財の虫害防除法の開発（特定研究(1) 研究代表者 森 八郎）

3カ年の研究の総括として次のようにまとめた。

- (1) 生物劣化の対象としては、木質文化財に重点を置いて実態調査を実施した。
- (2) 新燻蒸剤の弗化サルフリルを加え、市販の燻蒸剤の殺虫殺菌効果を比較検討した。
- (3) これら燻蒸剤並びに希釈剤（CO<sub>2</sub>、フレオンなど）の材質への影響を検討し、文化財を劣化する虫や菌を殺滅するのに適した燻蒸剤として、臭化メチル、弗化サルフリル、酸化エチレンを選定し、薬量・燻蒸時間・温度等の燻蒸条件も決定した。
- (4) 燻蒸後の残留ガスの廃棄方法について検討し、経時的に取替えることのできる回収装置を開発し、これを実用化した。
- (5) 有機塩素系の薬剤は安全性の観点から使用できなくなってきたので、これに代わる低毒性薬剤について検討を加えた。特に、タケ材の防虫に比較的残効性のあるプロチオフォス、フォキシム等の有機リン剤が有効であることを明らかにし、また、建築彩色の防黴に有効な薬剤も選定した。

以上のほか、他の研究機関の研究代表者による計画研究に参加した者の研究課題、分担者を次にあげる。

「金属製遺物の非破壊の方法による材質分析の原理的検討」研究代表者 京都大学  
文学部教授 樋口隆康

分担課題 金属のX線分析（江本）

金属の放射化分析（馬淵）

「遺構の埋蔵環境と劣化原象並びに保存処理に関する研究」研究代表者 奈良国立  
文化財研究所 佐原 真

分担課題 埋蔵環境と劣化現象（江本）

「科学的方法による古彫刻の構造・材質・技法の研究」研究代表者 東京国立文化  
財研究所 久野 健



## 調査研究

分担課題 古彫刻の材質及び構造に関する研究（石川）

「古文化財保存材料としての天然漆についての科学的研究」研究代表者 東京大学  
生産技術研究所 熊野谿 従

分担課題 漆液組成の分析・漆液のレオロジー、漆膜の構造と紫外線劣化（見城）

## 5 修復技術部

### (1) 概要

修復技術部は、文化財の修復に関する科学的、技術的調査研究とその公表を主務とする部で、保存科学部が、主に文化財の保存にかかわる科学的分析研究をつかさどる部であるのに対し、修復技術部は、老化破損し、あるいは後世の付加物のある文化財について、もとの正しい状態に修理し、あるいは復元する方法についての科学的、技術的研究を担当している。

研究対象としては、絵画、書跡、彫刻、工芸品、考古資料などは勿論、木造構造物の組物や細部に描かれた絵、石造構築物などに及ぶ極めて広範囲の文化財があげられる。

研究組織としては、3研究室6研究員1専門職員からなっている。

### 第一修復技術研究室

木材及び漆を主材料とする文化財の修復に関する科学的・技術的調査研究とその結果の公表を主務とする。

### 第二修復技術研究室

紙、繊維又は皮革を材料とする文化財の修復に関する科学的・技術的研究とその結果の公表を主務とする。

### 第三修復技術研究室

石、金属、土又はその他の無機材質の文化財の修復に関する科学的・技術的研究とその結果の公表を主務とする。

各研究室とも、経常的な研究として、有形文化財を構成している材料、構造、製作技法についての研究や、それらを修復するための伝統技術の整理体系化と科学的裏付けの資料集積、そして更に科学的な材料、技法の修復への応用と開発のための臨床的な研究などを実施しており、とくに材質強化、補強、接合、剝落防止、朽損部充填等について各種合成樹脂の応用と技法の開発に努めている。

これらの研究過程においては、保存科学部との共同研究が必要な部分もあり、また部内においても、一つの文化財が二つの研究室にまたがる複合的な材質からなる場合も多く、それらについては各研究室員による共同作業によって研究が進められている。これらの詳細は次項に記す通りである。

特別研究「石造文化財の保存・修復に関する科学研究」は、3カ年の継続研究の第二年度として、文献収集、調査、実験研究を行った。(42頁参照)

また、受託研究のうち修復技術部の関係では、

- (1) 重文日光男体山頂出土鉄製品の修復処置研究
- (2) 国宝・重文日光社寺建造物の保存に関する研究（保存科学部と共同研究）
- (3) 仙台市伊達政宗墓所出土副葬品の保存処置に関する研究（同上）
- (4) 重文箱木家住宅柱材の修復処置研究
- (5) 国宝大崎八幡神社拝殿板絵彩色の保存処置研究
- (6) 重文福田寺経塚出土経巻の保存処置に関する研究

を実施した。

## (2) 研究調査活動

### A 一般研究

#### 1. 伝統的製作技法及び修復技術の研究

修復技術部の経常的研究主題の一つとして、伝統技法の調査研究がある。現在は彫刻（木彫像の木寄せ法、彩色技法、金銅仏鑄造技法）、工芸品（漆芸・木工芸技法）、絵画・書跡の装潢技法、出土金属工芸品の技法などを研究対象としている。これは作品がどのような材料を用い、どの様に造られているかについての実査を交えた資料蒐集分析、過去の修理記録及び実査データに基づく、修復技術の細部の分析を行い、これに科学技術がどの様に応用され得るかを明らかにしようとするものである。

## 調 査 研 究

### (1) 彫刻の製作技法、修復に関する実査研究

本年度は、東京国立博物館の依頼による法隆寺献納宝物中の伎楽面調査に参加して、その材質、技法の調査を行い、また、スエーデン大使館の依頼による同国民俗博物館所蔵能面、長崎県の依頼による対馬・海神社の古楽面等の修復研究を通して、仮面の材質技法研究、資料蒐集を行った。(田辺)

### (2) 漆芸技法の研究

高松塚古墳出土漆棺の保存処置及び文化庁保存事業の一つである蒔絵箏(国宝・春日大社)の模造に関しては、先年度に引き続き製作技法修復技法について助言を行った。(田辺・樋口・中里)

埼玉県立博物館より八幡山古墳出土漆棺断片の保存処置を依頼され、アルコール・トルエン法による処置を実施中である。これに伴って幾内古墳(御坊山、あやめ池、玉手山等)から出土した漆棺断片について調査した。(中里)

静岡浅間神社の塗替え工事に伴う漆塗装の調査を数回にわたって現地で行った。(田辺・樋口・中里・西浦)

螺鈿技法調査のため螺鈿鈿(明治神宮)、菊螺鈿(某家)、沃懸地螺鈿須弥壇(中尊寺)、螺鈿如意、沃懸地螺鈿説明箱(醍醐寺)を実査した。(中里)

### (3) 出土金属工芸品の製作技法の研究

製作技法資料の蒐集と調査研究は継続して行っているが、修復処置を通じてこれを行うとともに、東北大学蔵福島県跡見塚出土遺物などの実査をした。(青木)

### (4) 装潢技法の研究

伝統技術の一つとしての装潢技法に関する資料蒐集と調査研究は継続している。重要文化財指定会議の出品物に対し、文化庁に協力して、一部糊差し、繕いなどの応急修復処置を行った。(増田)

## 2. 合成樹脂による彩色保存の研究

本年度は、奈良県興福寺の国宝三重塔内初重板絵及び宮城県瑞巖寺の国宝本殿仏壇周囲の壁貼付、同県松島町観瀾亭内床貼付並びに襖の彩色剝落止めについての調査研究と施行指導を行った。実際の施行は、前者は京都在住の宮本滋基氏、後者は山形県在住の杉山昌士氏によるものだが、施行に当っては当研究所の研究員が現場で試行及び指導を行った。(樋口・中里・増田)

また、奈良県談山神社廟拝所内壁の彩色画に後年全面的に塗り重ねられた黄土層の除去についての研究依頼があり、蛋白質分解酵素による黄土層の軟化を試みた。二種の酵素で実験し、現場環境に適したビオプラゼを選んで現地で試行した結果、作業の可能性に見通しをつけるとともに実施段階での積算基礎を作成した。(樋口・増田)

### 3. 木造文化財の合成樹脂による修復技術の研究

人工木材の諸物性についての基礎研究は、51、52年度に引き続き、科学研究費(特定研究)で行われたが、その研究成果の一部であるアラルダイトXN1023(ガラスマイクロバルーン混入エポキシ樹脂)による樹脂処置指導を桂離宮の解体部材の修復に対して昨年度に引き続き行った。(樋口、西浦)

劣化朽損した木質構造部材の補強方法として、材の長さ方向に溝を切り、そこにエポキシ樹脂を流し込み、さらにそこに金属板、ガラス繊維等の補強材を埋め込む方法を実験検討した。この研究は、来年度以降も継続するが、現在迄の所、補強材と樹脂との接着力が処置された材の曲げ強度に最も影響し、金属としては、鉄がステンレス鋼よりも接着力において良好であるという結果が出ている。(樋口・西浦)

### 4. 石造文化財の修復処置に関する研究

特別研究(42頁参照)以外では、昨年度から引続いて行われている大分県重文熊野磨崖仏(本年度は不動明王像)の修理に際し、美術院国宝修理所に協力して樹脂処置を指導した。(樋口)

また、北海道の重文旧日本郵船小樽支店の石塀などの修理における合成樹脂処置について事前調査した。(樋口)

### 5. 金属製品の修復処置の研究

東京国立博物館保管出土鉄製品の中から、新しい修復技術の定着をはかる研究対象として、兵庫県亀山古墳出土眉庇付冑1個、茨城県出土頭椎大刀一口、出土地不詳玉杖1個他を処置した。(青木)

香川県岡御堂1号墳出土の短甲に対して、ウレタン樹脂による取上げから修復まで一貫した処置を行い好結果を得た。(樋口、青木)

鉄製品に対するタンニン酸による防錆処置としては、北海道江差の開陽丸から取出された日本刀にこれを試みその効果を観察中である。(樋口・青木)

また、埼玉県稲荷山古墳出土辛亥銘鉄剣の保存処置についての委員会の依頼で、そ

## 調査研究

の保存処置について協力した。(樋口)

青銅製品の保存処置法については、種々の試験結果に基づき、本年度から実際の遺物についてベンゾトリアゾール法による処置を実施した。本年度はイラン出土の剣に対して脱塩処理法を検討しながら行った。(樋口・青木)

金銅製品の緑青のクリーニング法を定着させる遺物として、本年度、福井県松岡町出土天冠、群馬県二子山古墳出土帯の保存処置を実施した。(樋口・青木)

### 6. 遺跡、遺構、遺物の保存に関する研究

東北大学工学部応用化学科助教授小野堯之氏を招聘研究員として招き、メチルメタクリレートモノマーの土中重合による住居跡・貝塚等の保存処置法の研究を加曾利貝塚にフィールドを設けて実験を行った。(樋口・青木)

地層断面を薄く剥ぎ取って保存する方法については、大田区久ヶ原遺跡のローム層に対して、醋酸ビニール・マレイン酸エチル共重合体を土に浸透させ、そこにガーゼと麻布をアクリル揺変エマルジョンで貼って1.5×3mの剥ぎ取りを行った。(樋口・青木)

熊本県三角町小田良古墳石障の保存に関し、保存科学部と協力して実査し、石材の樹脂処理について検討した。三重県新大仏寺の本尊の石造基壇(重文附指定)の移動に伴う発掘及び埋めもどしに際しての処置について指導を行った。(樋口)

江差市開陽丸出土木製品には、脱塩後、水を第三級ブタノールに置換して凍結乾燥を実施し、皮革については脱塩後低濃度のホルマリン水溶液にて再度鞣して乾燥し、オリーブ油エマルジョンにてやわらかくした。(樋口・青木)

奈良県橿原考古学研究所の依頼により、太安萬呂墓及び出土墓誌銘孔の保存に関する調査、研究に協力した。(田辺・樋口)

### 7. 特別史蹟・国宝高松塚古墳壁画修理事業への協力

修復処置の実施にあたり、壁画修復作業に参加した。作業対象は天井から側壁へと拡がり、55年度までの3カ年継続して完成する予定である。(増田)

## B 特別研究

石造文化財の保存・修復に関する科学的研究(保存科学部と共同研究、34頁参照)

## C 受託研究

### 1. 重文日光男体山頂出土鉄製品の修復処置研究（栃木）

本件は3カ年継続の国庫補助による修理事業の一部であり、今年度はその最終年度にあたる。

処置の対象は一括遺物中の剣、刀子、短刀など約150点の鉄製品で、錆のために脆弱化した鉄製品にアクリル樹脂エマルジョンの減圧含浸を行って強化するとともに、考古学的見地からの欠失部の修復を主として行った。実施に当っては文化庁美術工芸課担当官の指導を受けた。（青木）

### 2. 国宝・重文日光社寺建造物の保存に関する研究（栃木）（保存科学部と共同研究、35頁参照）

### 3. 仙台市伊達政宗墓所出土副葬品の保存処置に関する研究<Ⅲ>（宮城）（同上）

昭和50年度及び52年度に引続いて行われている研究で、遺物中の漆芸品類は調湿剤を入れたアクリルケースでシーズニングしているが、この内特にキセル箱は木部が腐朽して漆膜のみとなっているので、この漆膜から同寸の木部を新造し、それに原漆膜を移植する処置を行うこととし、昨年度はその予備実験を重ねて可能性を追求したが、今年度は実際に処理を行い全て完了した。

漆膜は厚い下地を伴うので、割れたものは内側に強くカールし、そのままでは貼れないのでいったんアクリル板の間で平らに延ばしたものを貼り付けた。接着剤としては揺変エマルジョンを用いた。膜貼付時の押さえには塩ビ薄板をあてがい、画鋏、シャコマン等も使い圧着した。漆膜欠失部は下地をつけ隅取り漆塗りとして完成した。（中里・三浦）

### 4. 重文箱木家住宅柱材の修復処置研究（兵庫）

箱木家住宅の解体修理に際し、大部分の柱は強度保持のため新しく取換えられたが、当初材として重要なもの4本は修理してふたたび用いたい強い要望があった。この柱は大きな貫穴が四方からあけられた部分が上下にあり、そこから折損しているため補強方法が問題で、当初鉄板で周囲から包み込むような案も出されていたが、最終的には当研究所の受託研究として、合成樹脂加工によって修復することとなったものである。

樹脂加工の方法は、まず柱全体にMMAのプリポリマーを含浸して強化し、アラル

## 調査研究

ダイト XN 1023によって折損部を整形しながら接合した。次に貫穴周辺の補修部分の強度を補うため、ここに溝を切り、中にステンレス鋼板や同丸棒を埋め込みエポキシ樹脂を注入して固定したり、FRP を貼り込んだ。

この処置した表面を更にアラライト XN 1023で覆い硬化後古色付けして処置を完了した。

現在箱木家住宅の修理は完了しているが、この修復した柱は何等異状がない。(樋口・茂木)

### 5. 国宝大崎八幡神社拝殿板絵彩色の保存処置研究(宮城)

この板絵は樺板に胡粉下地をおき、比較的厚い彩色で描かれているもので、過去2回(昭和31年及び42年)にわたって剥落どめの処置が実施されたが、十分な効果の得られなかったものである。今回は所期の目的が達せられなかった原因を調査し、最終的にはどのような方法がよいかを検討する目的で、試験施工を実施した。

第1回目の処置はPVA水溶液で行ったもので、PVAの高い粘性と、低い樹脂濃度のため、厚い顔料層を通して木地まで及ぶことができず、接着不良をもたらした。第2回目は比較的樹脂濃度の高いエマルジョンで剥落どめが行われた。この場合剥離部に充分エマルジョンを注入させ得た箇所は接着しているが、顔料層の表面からの浸透に期待した箇所はほとんど効果がないという結果を生んでいる。これは前回のPVA処置で顔料層表面の強化とともにその多孔性が失われたためと考えられる。

そこで今回は表面張力の低いアクリル樹脂溶液を剥離界面に浸透させる方法と、最近開発した揺変性エマルジョンの注射器による剥離部分への注入法を試みた。樹脂溶液ではこのようにつばりの強くなった顔料層を接着するのに粘性が小さく、良好な接着は得られなかったが、揺変エマルジョンはその粘度を調節することで剥離部分への注入を容易にし、確実に接着することができた。但しこの方法は拡散が全くないので、剥離部分を丹念に拾って施行する必要がある、処置時間が長くなる欠点があるが、この場合には最適な方法と結論された。(樋口・中里・茂木)

### 6. 重文福田寺経塚出土経巻の保存処置に関する研究(京都)

本作は花脊別所経塚群出土品の国庫補助による修理事業の一環で、出土品の一部である棒状に固化しあるいは一部仮りに展開されたままで保存されていた経巻の修復処置に関するものである。

これらは卷子装として保存する計画であるが、本紙自体の劣化が甚しく、合成樹脂含浸による紙質強化がまず必要とされる。その基礎として、テストピースによる合成樹脂の含浸適量を知るための実験を行っており、この実験後、経巻の一部を展開し含浸処置を行い、来年度の修理に応用しようとするものである。(増田)

#### D 科学研究費

##### 1. 古美術品・古建築の主要材料である木材とその化粧材・接着剤の耐久性、強度及び劣化現象に関する研究(特定研究(1) 研究代表者 田辺三郎助)

この研究の目的は、古美術品、古建築等に用いられる木材とその表面に塗られる漆膜、彩色層の劣化変質現象及び木材の接着、充填に用いる漆、膠等の伝統的材料や各種合成樹脂等化学的材料の強度、耐久性、経年変化の実態を検討し、併せて木造文化財の保存と修復技術の改良に役立たせるものである。

本年度は3カ年継続研究の最終年度であるが、前二年に引続き、丹・白土・胡粉・漆の塗手板を作製し、ウェザーメーター、屋外曝露による耐久性試験を行った。また、人工木材(SV 426, XN 1023)の諸物性試験を継続して行った。古建造物の継手については、先年度試験した四種に加え、本年度は、追掛、追掛大栓、尻挟金輪の各継手について試験を行いその結果を解析検討した。又、合成樹脂(エポキシ樹脂)による劣化した木質構造部材の補強修復処置について多くの実験を行った。(2), A, 3 参照)

これらの結果の一部は、昭和54年3月15日～3月17日、東京国立博物館講堂で行われた研究成果に関するシンポジウムにおいて次の如く発表した。

・古建築構造部材の力学的研究<継手の強度について>(杉山英男・東京大学農学部)

この他、他の研究機関の研究代表者による研究に参加したものの研究課題及び分担者に次のものがある。

「遺構の埋蔵環境と劣化現象並びに保存処置に関する研究」研究代表者 奈良国立文化財研究所 佐原 真

分担課題 保存処置実験及び保存材料の研究(樋口)



## 調査研究

### 6 情報資料部

#### (1) 概 要

情報資料部は、従来美術部資料室の行ってきた美術に関する研究資料の作成、収集、整理、保管等の業務を充実発展させ、さらに研究所各部の所掌にかかる資料を対象とすることを目的として昭和52年4月18日新たに発足した。当部はその資料を文化財関係事業のみならず、国の内外の研究者の利用に供して、文化財に関する研究資料センターの役割を果たしている。当部研究員はこれら業務を行うとともに、各専門領域における調査研究を進め、その成果を美術部機関誌「美術研究」及び美術部・情報資料部合同で毎年開催される公開学術講座などで発表している。

研究組織は文献資料研究室と写真資料研究室の2室よりなる。

#### 文献資料研究室

研究文献資料の収集、整理、保管、閲覧等の業務を分担するとともに、特に継続中の科学研究費による「戦後における日本・東洋美術史学の発達に関する研究」の推進力としての役割を果たした。

また毎年、日本・東洋古美術に関する雑誌論文及び単行図書を分類集録した文献目録を編纂し、美術史学界はじめ関連学界に貢献している。定期刊行物所載古美術関係文献について、前回の昭和11年～40年の目録に引続き、昭和41年以後の目録作成のための準備を続行している。

これらの業務のほか、当室研究員は、日本・東洋古美術各分野で、専門的調査研究を進めてその成果を公表し、また落款・印章に関する特別研究、科学研究費による一般研究「中世絵画・彫刻作家資料の収集と研究」（代表者 宮次男）に参加した。

#### 写真資料研究室

研究用写真資料の作成、収集、整理、保管等を行う。本年も、従来通り各研究者の調査研究活動に同行して研究資料を撮影し、写真資料を作成した。また、それと平行して、美術研究所当時に撮影したガラス写真原板のフィルム面が剝離剝落が進んでい

るので、転写しておくことを昨年度に引続き実施した。なお、転写した各フィルムについて密着焼付写真を貼った小型写真カードを作成する作業に着手した。

これらの業務のほか、当研究室員は日本・東洋古美術について専門的な調査研究を進めその成果を公表した。科学研究費による一般研究「中世絵画・彫刻作家資料の収集と研究」(代表者 宮次男)のほか、他機関の科学研究費による特定研究「科学的方法による東洋古代中世絵画の材質技法に関する研究」(代表者 東京大学 秋山光和)に参加した。

## (2) 研究調査活動

### A 一般研究

#### 1. 日本彫刻史の研究・古代彫刻史の研究

京都、大阪、東京の個人所蔵の新羅金銅仏の調査を行った。また静岡服部家所蔵の仏像調査を行い、奈良興福院阿彌陀三尊像、額安寺虚空蔵菩薩像、神護寺薬師如来像等のX線撮影と調査を行った。(久野)

#### 2. 日本古代中世絵画史の研究

##### (1) 浄土教絵画研究

千葉県大隆寺蔵山越阿弥陀図の調査。(関口)

##### (2) 密教絵画研究

千葉県延命寺蔵両界曼荼羅図、東京靈雲寺蔵受染明王像の調査。(関口)

##### (3) 科学的方法による古代絵画の材質・技法に関する研究

科学研究費特定研究「科学的方法による東洋古代中世絵画の材質・技法に関する研究」(代表者 東京大学 秋山光和)に参加、醍醐寺蔵五大尊像を調査。(関口)

##### (4) 料紙装飾を中心とする古代中世絵画の研究

平安時代の經典や和歌写本の見返し絵や下絵について、特に東京国立博物館法隆寺館の梵網経見返しや、芦手朗詠集下絵などを中心に研究を進めた。(江上)

##### (5) 鎌倉時代仏教絵画研究

法隆寺蔵聖徳太子勝鬘經講讀図、薬師寺蔵板絵神像の調査。(関口・江上・米倉)

##### (6) 鎌倉時代絵巻物・肖像画の研究

アメリカ合衆国に出張し各地美術館・個人所蔵の絵巻物の調査を行った。また科学

## 調査研究

研究費による一般研究との関連で作者名のわかる絵巻物作品の調査を行った。肖像画に関しては文献遺品の調査研究を進めた。(米倉)

### 3. 日本近世絵画資料の収集と研究

#### (1) 宗達光琳派の研究

主として酒井抱一の基準作品と伝記資料について調査を行った。(河野)

#### (2) 狩野派の研究

科学研究費一般研究「探幽縮図の研究」(研究代表者 河野元昭)により探幽縮図等の調査を行い、資料を収集整理した。(河野・江上・米倉)

#### (3) 文晁派の研究

栃木県立美術館主催「谷文晁展」(53.2.17～3.21)の実行委員となり、陳列作品の調査撮影を行った。

#### (4) 絵馬の研究

金龍山浅草寺所蔵の代表的絵馬について調査撮影を行った。

### 4. 東洋古代文様史の研究

科学研究費海外学術調査「イラン・イラクにおける美術・考古学的調査」(代表者 東京大学 深井晋司)に参加し、イラン南西部のターク・イ・ブスターン摩崖浮彫を調査。(関口)

#### 東洋古代文様史の研究

インド・パキスタン・アフガニスタンに出張し、各地博物館並びにバーミヤンなどの遺跡における古代文様資料を調査するなど、西南アジアと東アジアの関係に重点をおいて研究を進めた。(江上)

### 5. 朝鮮仏画の研究

前年度より引続き高麗仏画の調査研究を実施し、大和文華館の高麗仏画展出品の諸作品及び南禅寺、鐺阿寺、根津美術館、鎌倉国宝館等で調査を行った。(上野・江上)

### 6. 中央アジア古代絵画史研究

(1) ル・コック収集キジル壁画について研究を継続中。報告(1)の日本人洞を終え、第3区マヤ洞について在日資料の調査と在外資料の情報収集にあたった。(上野)

(2) 中央アジア東部—新疆維吾爾自治区—の研究史と最近の研究業績並びに発掘成果について、資料の収集検討を続行中。(上野)

## B 科学研究費

### 1. 「科学的方法による古彫刻の構造、材質、技法の研究」(特定研究(1) 研究代表者 久野健)

本年度は従来内部構造の不明であった木心乾漆造のX線透過撮影と金銅仏の成分の分析及び $\gamma$ 線による透過撮影を主に研究、調査を行った。木心乾漆像の調査では奈良興福院の阿弥陀三尊像、奈良額安寺の虚空藏菩薩像、京都神護寺の薬師如来座像のX線撮影及び調査を行い、金銅仏の調査では飛鳥・白鳳時代の小金銅像十数体と個人所蔵の新羅仏三十数体の $\gamma$ 線撮影と蛍光X線分析を行った。その成果は54年2月東京国立博物館で行った「古文化財」の総会において発表した。

### 2. 「戦後における日本・東洋美術史学の発達に関する研究」(一般研究(A) 研究代表者 上野アキ)

本年度は本研究の第3年度(最終年度)にあたり、当初の計画に従って順調に進行した。収集した昭和50年度までの資料については、分類整理を終り、51年度以降について引続き作業を継続し、他日の刊行に備えている。

### 3. 「探幽縮図の研究」(一般研究(C) 研究代表者 河野元昭 研究分担者 川上 経・江上 綏・鶴田武良・米倉迪夫)

本年度は本研究の第2年度(最終年度)にあたり、当初の計画にしたがって順調に進行、所期の目的を達成して一応の完成をみた。第1年度調査撮影分に本年度行った京都国立博物館寄託個人所蔵分を加え、カード化及び整理を完了、間もなく索引制作のための留書き解説も終了する予定である。ここまでの成果を報告書にまとめて配布した。

## 7 主要研究業績

①: 著書 ②: 論文 ③: 解説 ④: 研究発表  
⑤: 講演・放送 ⑥: その他  
昭和53.4~昭和54.3

### 所 長

伊藤 延男(所長)

- |                               |               |       |
|-------------------------------|---------------|-------|
| ② 寺                           | 啓発45号         | 53. 7 |
| ② 浄琉璃寺の歴史, 本堂, 三重塔            | 大和古寺大観        | 53. 8 |
| ③ 表慶館のドーム                     | 国立博物館ニュース373号 | 53. 6 |
| ③ 博物館交流拡大への期待—第9回日米教育会議に出席して— |               |       |

## 調査研究

文化庁月報 53. 10

③ 建築の保存と創造 新建築 54. 1

⑤ 文化財保護の歴史と展望

都市開発と歴史的環境の調和を考える講演会 53. 8

同上要旨 朝日新聞 53. 9

## 美術部

川上 涇（美術部長）

② 清明上河図について 新修日本絵巻物全集月報21 53. 11

⑤ 中国絵画における人間像 金沢美術工芸大学 53. 12

田村 悦子（主任研究官）

② 天理・旧松永本『源氏物語絵巻』詞書（桐壺）断簡—熱海美術館蔵国宝手鑑  
「翰墨城」所収 美術研究307 53. 9

② 藤原佐理書状 去夏帖について一棹の単位は材か村か—  
美術研究308 53. 10

柳澤 孝（主任研究官）

① 十一面観音像（日野原家） 学習研究会 53. 4

② 年中行事絵巻と真言院の道場内荘厳 新修日本絵巻物全集月報22 54. 1

② On the “Ryokai mandara” —The Oldest pair of Mandalas at the  
Kyoogokoku-ji in Kyoto—, MANDALA, The Seibu museum of Aat,  
Tokyo, 1978.

④ 東寺五大尊像の諸問題 特定研究絵画班研究会 54. 1

④ 日本古代絵画における青色有機色料（藍）の使用法—醍醐寺五重塔板  
絵（951年）を中心に—（秋山・田口と共同）

昭和53年度特定研究「古文化財」研究会 54. 3

⑤ 仏画の偽作鑑別について ハーバード大学美術学科 53. 9

⑤ 平安後期の仏画 コロンビア大学美術学科 53. 10

主要研究業績

猪川 和子（主任研究官）

- ③ 仏像の尊容 大法輪46巻1号 54. 1
- ③ 観音像のひげ 工作舎「遊」1006号 54. 3
- ④ 京都万寿寺阿弥陀如来像について 文化庁重要文化資料選定協議会 53. 7
- ④ 涅槃彫刻調査報告 美術部研究会 53.11

田実 栄子（主任研究官）

- ④ 紀州東照宮蔵茶壺口覆の金華山裂について 美術部研究会 54. 4
- ② 紀州東照宮の東照公小袖について 大日光49号 53. 8
- ③ 紅地金入繻珍桃文様陣羽織 国華1018号 53.11
- ⑤ 酒井氏蔵 牡丹唐草文様麻裂について  
文化財保存事業伝承者養成「型絵染」研修会 53. 2
- ② 新資料 紀州東照宮の服飾類 中  
—紀州東照宮服飾類調査報告1— 美術研究310号 54. 3

陰里 鉄郎（主任研究官）

- ① 村山槐多と関根正二 近代の美術50 至文堂 54. 1
- ② 小堀進と日本の水彩画 茨城県立美術館「小堀進遺作展」目録 53. 9
- ② 近代日本の洋画・大正から昭和への展望  
群馬県立近代美術館「近代日本洋画展—大正から昭和へ」 53. 9
- ③ 浅井忠「収獲」 東京新聞 53.10
- ⑤ 黒田清輝と明治絵画 千葉県立美術館 53. 5
- ⑤ 東北の画家萬鉄五郎 秋田市立美術館 53. 9
- ⑤ 黒田清輝と外光派 ブリヂストン美術館土曜講座 44. 1
- ⑥ 秋季美術団体展評 共同通信 53.9~11
- ⑤ 原精一のデッサン・裸婦 「絵」 54. 3

宮 次男（第一研究室長）

- ① 合戦絵 「日本の美術」146 至文堂 53. 7

## 調査研究

- ② 絵巻物展望 国語科通信37 53. 4
- ② 鎌倉時代肖像画と似絵 「新修日本絵巻物全集」26 53. 9
- ② 中殿御会図について 同
- ⑥ 絵巻年表 国語科通信37 53. 4

## 鶴田 武良（第一研究室）

- ① 近代中国絵画（昭和49年角川書店刊本の中国文訳本）  
台湾・雄獅美術図書公司 52. 12
- ② 近百年來中国画人資料四 美術研究309号 53. 9
- ④ 中国の現代絵画所感 美術部研究会 53. 5
- ④ 八大山人と牛石慧について—新出の牛石慧筆鳥石図を中心に—  
美術部研究会 54. 3

## 関 千代（第二研究室長）

- ① 中村貞以 「現代日本美人画全集」集英社 53. 6
- ① 前田青邨の歴史画（共著） 鹿島出版会 53. 12
- ① 現代日本美術全集（日本画編） 集英社 54. 2

## 芸 能 部

### 三隅 治雄（芸能部長）

- ① 日本祭礼地図Ⅳ（榎本由喜雄・田原久・木下忠・原浩—共編著）  
国土地理協会 54. 3
- ② シイカゴ舞小考 『多古のしいかご舞』所収 54. 2
- ② 船の芸能史考 『芸能の科学』10 54. 3
- ③ 正月の芸能今昔 季刊邦楽17号 53. 12
- ④ 日本における民俗芸能の社会的機能 東北アジア民俗学国際学術会議 53. 6
- ④ 紀伊と芸能 地人会 54. 1
- ⑤ 祭と民俗芸能 岩波市民講座 53. 6
- ⑤ 民俗芸能の伝承と保存 長野県教育委員会 53. 10

# 主要研究業績

- ⑤ 伝統文化の継承と青年の果す役割 盛岡青年の家 53.10
- ⑤ 岡山県における民俗芸能の分布 岡山県立博物館 53.11
- ⑤ 古典芸能の魅力 朝日カルチャーセンター 54.2〜3

## 佐藤 道子（演劇研究室長）

- ② 呪術から芸能へー能・狂言の母胎ー 「国文学」6月号 53.6
- ③ 東大寺の修二会 「祭りと芸能の旅」4ぎょうせい 53.4
- ③ 日本風俗史事典 弘文堂 54.2
- ⑥ 書評：戸井田道三・後藤淑「能面」 「芸能」6月号 53.5

## 羽田 昶

- ① 『薪能』（共著） 鎌倉市観光協会 53.9
- ② 狂言、せりふとしぐさの構造ー「箕被」の場合 「国文学」6月号 53.6
- ② 能の作劇法と演技 別冊太陽「能」 53.11
- ② 児童図書の中の能・狂言 「観世」12月号 53.12
- ② 能の普及に功績のあった人びと 「図書新聞」 53.12
- ② 狂言の雛子事 「芸能の科学」10 54.3
- ⑥ 書評：大河内俊輝「雪の能」 能楽タイムズ 53.6
- ⑥ 書評：白洲正子・権藤芳一「世阿弥を歩く」 能楽タイムズ 53.10
- ⑥ 能評：「松風」「鐘の音」ほか 能楽タイムズ 54.1

## 松本 雍（演劇研究室）

- ② 能、＜舞う＞＜語る＞の位相 「国文学」6月号 53.6
- ③ 能楽用語解説 別冊太陽「能」 53.11
- ⑥ 能評：「敦盛」「白田村」ほか 能楽タイムズ 53.6
- ⑥ 記録：「関寺小町」メモ 能楽タイムズ 53.7

## 柿木 吾郎（音楽舞踊研究室長）

- ② 五木の子守唄に見る子守唄の原型 芸能の科学10 54.3



## 調査研究

- ② 学校教育での伝統音楽 音楽鑑賞教育 54. 1
- ⑤ 古典邦楽と現代邦楽 クインズランド大学公開講座 53. 7
- ⑤ 箏の技法、古典と現代—求められる技法の変化— 芸能部公開学術講座 53. 12
- ③ オーストラリア原住民の音楽行動 音楽学会 53. 11

## 山本 宏子

- ② 日本の箏とアジアのツィター属 芸能の科学10 54. 3

## 横道萬里雄

- ② 唱歌概観 口唱歌大系 53. 10
- ② 道成寺の戯曲 季刊邦楽 53. 12
- ③ 能 別冊太陽 53. 11
- ④ 舞踊学の方法論 舞踊学会 53. 6
- ⑤ 日本の古典芸能 朝日カルチャーセンター 53. 4～6
- ⑤ 世阿弥の能楽論 多摩市民会館 53. 11
- ⑤ 夢幻能の世界「井筒」 能楽懇談会 53. 12
- ⑤ 箏曲と能 箏曲の伝統を守る会 54. 2
- ⑥ 熊本の型と謡（対談） 能楽タイムズ 53. 11

## 中村 茂子

- ② じんやく踊考 芸能の科学10 54. 3
- ③ 未来芸能大神楽 自然と文化79春季号 54. 3
- ⑤ 地方定着の大神楽 小布施町教育委員会 54. 3
- ⑥ 大神楽—その芸の魅力— 公演演出 53. 10
- ⑥ 大神楽 美を求めて監修 53. 11

## 仲井幸二郎

- ③ 民謡の知識 日本音楽教育センター 53. 10
- ③ 実習民謡曲集・曲目解題 日本音楽教育センター 53. 10

## 主要研究業績

- |                 |                 |            |
|-----------------|-----------------|------------|
| ③ 津軽三味線の魅力      | リーダースダイジェストレコード | 54. 3      |
| ③ ねぶたと津軽三味線     | リーダースダイジェストレコード | 54. 3      |
| ③ 民謡と尺八         | リーダースダイジェストレコード | 54. 3      |
| ③ 太鼓の魅力         | リーダースダイジェストレコード | 54. 3      |
| ④ 信太妻伝承と和泉      | 慶応義塾大学地人会       | 53.12      |
| ④ 山家鳥虫歌（共同研究）   | 芸能              | 53.4～54. 3 |
| ⑤ わらべうたとお正月     | 慶応義塾中等部         | 53.12      |
| ⑥ 祝福と期待と        | みんよう文化7月号       | 53. 6      |
| ⑥ 日本民謡の二つの表情    | 三田評論7月号         | 53. 7      |
| ⑥ 民謡の本流・支流（座談会） | 日本音楽教育センター      | 53.10      |
| ⑥ テクニカルタームの統一   | みんよう文化12月号      | 53.12      |

## 保存科学部

江本 義理（保存科学部長）

- |   |  |       |
|---|--|-------|
| ② 古銭の研究における鉛同位体比の応用（馬淵・平尾・山幡と共同）  | 古文化財之科学 22号  | 53. 8 |
| ② Characterization of Ancient Japanese Roofing Tiles by 57 Fe Mössbauer Spectroscopy（富永・武田・馬淵と共同） | Archaeometry20   | 53. 8 |
| ② Coloring Technique and Repair Methods for Wooden Cultural Properties（西川と共同）                     | “Conservation of Wood” Proceedings of International Symposium on the Conservation and Restoration of Cultural Property               | 53.11 |
| ③ 木造建造物の保存科学  | 建築雑誌94   | 54. 1 |
| ③ 博物館資料の保存科学  | 化学教育27   | 54. 2 |
| ④ Disintegration Products from Relics and Sites   | The 2nd International Symposium on the Conservation and Restoration of Cultural Property—Cultural Property and Analytical Chemistry— | 53.11 |
| ④ アルカリ性汚染因子の確認と環境調査用モニターの作成   |  |       |

## 調査研究

科学研究費特定研究「古文化財」昭和53年度研究発表会 54. 3

### ⑤ 保存科学概論

昭和53年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修会 53. 11

### ⑤ 資料の収集・保管及び調査研究 国立社会教育研修所博物館職員講習会 53. 12

### 見城 敏子（主任研究官）

#### ② 漆の分析に関する研究（第2報）赤外吸収分析 古文化財之科学23号 53. 11

#### ② Effect of Humidity on the Hardning of Lacquer

“Conservation of Wood” Proceedings of International Symposium  
on the Conservation and Restoration of Cultural Property 53. 11

#### ② 多賀城跡出土漆紙文書・漆状の物質について

宮城県多賀城跡調査研究所資料集 I 54. 3

#### ④ Determination of Copper, Iron and Manganese in Japanese

Lacquers by Atomic Absorption Spectroscopy（馬淵と共同）

The 2nd International Symposium on the Conservation and  
Restoration of Cultural Property—Cultural Property and Analytical  
Chemistry— 53. 11

#### ④ 環境条件の判定（環境調査用モニター）（分担）

科学研究費特定研究「古文化財」昭和53年度研究発表会 54. 3

### ⑥ 漆・彩色

歴史公論 2（縄文時代日本） 54. 2

### 門倉 武夫（主任研究官）

#### ② 文化財周辺気中の塵埃に関する研究〔Ⅱ〕 走査電子顕微鏡・X線マイ

クロアナライザーによる銅板葺屋根の汚染物質の測定（鈴木・西当と共同）

保存科学18号 54. 3

#### ② レオナルド ダ ビンチ展における生物劣化防除（新井・森と共同）

保存科学18号 54. 3

#### ④ Activation analysis of Traditional Japanese Paper（馬淵・野津と共同）

The 2nd International Symposium on the Conservation and

主要研究業績

Restoration of Cultural Property—Cultural Property and Analytical  
Chemistry— 53. 11

- ④ 新設展示・収蔵施設の汚染因子と収納文化財への影響・環境中の粉塵(分担)  
科学研究費特定研究「古文化財」昭和53年度研究発表会 54. 3

馬淵 久夫(化学研究室長)

- ② 日の出山窯跡瓦の放射化分析(野津・堀井・不破と共同)  
考古学と自然科学10号 53. 4
- ② 原子吸光法による東洋の古銭の化学分析(山口・菅野・中井と共同)  
古文化財の科学22号 53. 8
- ② 古銭の研究における鉛同位体比の応用(江本・平尾・山幡と共同)  
古文化財の科学22号 53. 8
- ② 和紙の製造工程における含有元素の挙動(野津・牧島・不破と共同)  
古文化財の科学23号 53. 11
- ② Characterization of Ancient Japanese Roofing Tiles by  $^{57}\text{Fe}$   
Mössbauer Spectroscopy(富永・武田・江本と共同)  
Archaeometry, 20, 2 (1978)
- ② Nuclear Techniques Applied to Archaeological Objects  
日本自然科学集報4 53. 12
- ② 核技術による古文化財の研究—産地推定を中心に—  
Radioisotopes28(2) 54. 2
- ② 質量分析計へのマイクロコンピュータの応用(藤井・平尾と共同)  
保存科学18号 54. 3
- ③ 第2回文化財保存修復国際研究集会—文化財と分析化学—  
文化庁月報126号 54. 3
- ③ 文化財と分析化学—第二回文化財保存修復国際研究集会報告—  
月刊文化財186号 54. 3
- ④ 質量分析法による鉛同位体比の測定(中村・平尾・木村共同)  
第15回理工学における同位体元素発表会 53. 6

## 調査研究

- ④ 古銭の研究における鉛同位体比の応用（平尾・山幡共同）  
第15回理工学における同位体元素発表会 53. 6
- ④ 和紙の中の微量元素の定量（野津・牧島・不破共同）  
日本分析化学会第27年会 53. 6
- ④ ICPを用いた古銭の分析（野津・井山・富永共同）  
日本分析化学会第27年会 53. 6
- ④ Determination of Copper, Iron, and Manganese in Japanese Lacquers  
by Atomic Absorption Spectroscopy（見城と共同）  
The 2nd International Symposium on the Conservation and  
Restoration of Cultural Property—Cultural Property and Analytical  
Chemistry— 53. 11
- ④ Simultaneous Multielement Analysis of Coins by Inductively Coupled  
Plasma—Optical Emission Spectroscopy（野津と共同）  
The 2nd International Symposium on the Conservation and  
Restoration of Cultural Property—Cultural Property and Analytical  
Chemistry— 53. 1
- ④ Activation Analysis of Traditional Japanese Paper（門倉・野津共同）  
The 2nd International Symposium on the Conservation and  
Restoration of Cultural Property—Cultural Property and Analytical  
Chemistry— 53. 11

## 石川 陸郎（物理研究室）

- ② 多賀城跡出土漆紙文書・見えない文字の赤外線テレビによる解読  
宮城県多賀城跡調査研究所資料集 I 54. 3
- ② 多賀城跡出土漆紙文書・素材物質の性状について  
宮城県多賀城跡調査研究所資料集 I 54. 3
- ④ 分光特性を利用した古文化財上の文字の復元（三浦・稲村・豊田共同）  
第4回リモートセンシングシンポジウム 53. 11
- ④ 実験収蔵庫内の温湿度測定（分担）

## 主要研究業績

科学研究費特定研究「古文化財」研究発表会 54. 3

### ④ 汚染因子の防除法（分担）

科学研究費特定研究「古文化財」研究発表会 54. 3

## 三浦 定俊（物理研究室）

④ XCT による仏像の調査（馬淵と共同） 第17回 SICE 学術講演会 53. 8

④ 分光特性を利用した古文化財上の文字の復元（石川・稲村・豊田と共同）

第4回リモートセンシングシンポジウム 53.11

④ 実験庫—温湿度（石川・半沢と共同）

特定研究「古文化財」昭和53年度研究発表会 54. 3

⑤ 博物館の照明について 日本博物館協会九州支部大会・宮崎 53.12

## 新井 英夫（生物研究室長）

② 増上寺における経蔵などの燻蒸（森八郎と共同）

古文化財の科学22号 53. 8

② 明治神宮宝物殿虫害の調査，対策並びに措置（森八郎と共同）

古文化財の科学22号 53. 8

② 文化財と微生物

岩波講座現代生物科学月報 8 53.10

② Biodeterioration of Wooden Cultural Properties and Its Control

“Conservation of Wood” Proceedings of International Symposium

on the Conservation and Restoration of Cultural Property 53.11

② 建築彩色に発生する糸状菌の防除法

保存科学18号 54. 3

② レオナルド ダ ビンチ展における生物劣化防除（森・門倉と共同）

保存科学18号 54. 3

② タケ材の虫害と防除措置（森と共同）

保存科学18号 54. 3

④ 微生物発生時の環境条件の推定（分担）

科学研究費特定研究「古文化財」昭和53年度研究発表会 54. 3

④ 微生物に対する燻蒸条件の検討と低毒性薬剤の検索（分担）

科学研究費特定研究「古文化財」昭和53年度研究発表会 54. 3

## 調査研究

森 八郎 (生物研究室)

- ② わが国におけるシロアリの生息北限調査 (前田・児玉・清水・山根と共同)  
しろあり33号 53. 6
- ② 文化財とシロアリ  
しろあり34号 53. 7
- ② 増上寺における経蔵などの燻蒸 (新井と共同) 古文化財の科学22号 53. 8
- ② 明治神宮宝物殿虫害の調査・対策並びに措置 (新井と共同)  
古文化財の科学22号 53. 8
- ② わが国に生息するヒラタキクイムシ科 Lyctidae の1害虫種ケプトヒラタキ  
クイムシ *Minthea rugicollis* Walker 追記 木材保存12号 53. 9
- ② Insect Pests of Wooden Cultural Properties and Their Control in  
Japan (Preprint of the Contribution to the Oxford Congress)  
The International Institute for Conservation of Historic and  
Artistic Works (I. I. C.) 53. 9
- ② 本州日本海沿岸のイエシロアリ分布調査 (児玉・山根と共同)  
しろあり35号 53. 10
- ② 北海道におけるシロアリ分布と文化財の蟻害について  
古文化財の科学23号 53. 11
- ② 小笠原諸島 (父島) におけるシロアリ分布の変遷  
しろあり36号 54. 1
- ② わが国に生息する“住まいの害虫”リスト〔Ⅱ〕各論2 鞘翅目 (続)  
しろあり37号 54. 3
- ② タケ材の虫害と防除措置 (新井と共同) 保存科学18号 54. 3
- ④ わが国における最近のシロアリ分布と被害調査 (第8報) (前田・児玉・  
清水・山根と共同) 日本応用動物昆虫学会大会 53. 4
- ④ 文化財の虫徴害防除法の開発 (新井と共同)  
科学研究費特定研究「古文化財」昭和53年度研究発表会 54. 3
- ⑤ シロアリ NHK (FM) 53. 5
- ⑤ 建築物の虫害 しろあり対策ゼミナール講演  
(社)日本しろあり対策協会 53. 8
- ⑤ シロアリ ラジオ関東 53. 12

## 主要研究業績

- ⑤ シロアリの昆虫学的知識 しろあり防除施工講習会講演  
(社)日本しろあり対策協会(東京) 54. 2
- ⑤ シロアリの昆虫学的知識 しろあり防除施工講習会講演  
(社)日本しろあり対策協会(福岡) 54. 2
- ⑤ シロアリ (社)日本環境衛生センター講習会講演 54. 3
- ⑤ 住まいの害虫 (社)神奈川県藤沢消費生活センター講演 54. 3

## 修復技術部

### 田辺三郎助(修復技術部長)

- ① 小金銅仏(松原三郎共著) 東京美術 54. 2
- ③ 浄瑠璃寺四天王像 大和古寺大観7 岩波書店 53. 8
- ③ 当麻寺四天王像 大和古寺大観2 岩波書店 53. 12
- ③ 当麻寺行道面 大和古寺大観2 岩波書店 53. 12
- ③ 日本の仮面 特別展「日本の仮面」熱田神宮 54. 1
- ⑤ 江戸時代の彫刻 文化庁主催「修理技術者講習会」 53. 9
- ⑤ 日本仮面史概説 熱田神宮宝物館 54. 1

### 中里 寿克(第一修復技術研究室長)

- ② 国宝・大崎八幡神社拝殿板壁彩色の保存処置(樋口清治と共著)  
保存科学18号 54. 3
- ② 平安時代漆芸技法資料 VIII 保存科学18号 54. 3

### 西浦 忠輝(第一修復技術研究室)

- ③ 石造文化財の保存に関する海外研修 保存科学18号 54. 3
- ⑤ 石造文化財の保存に関する海外研修報告  
第8回文化財保存修復研究協議会 53. 9
- ⑥ Preservation Treatment of the Important "Lunette" in Scuola  
Grande S. Marco Presented to UNESCO 53. 11



## 調査研究

### 増田 勝彦(第二修復技術研究室)

- ⑤ 表具と技術 東京都博物館協議会 第3回博物館見学研修会 54. 2
- ⑥ Report of the mission for Examination of Damaged Japanese art  
Objects in Venice and Demonstration of Japanese Restoration  
Techniques in Rome. Presented to UNESCO 54. 2

### 樋口 清治(第三修復技術研究室長)

- ② 国宝・大崎八幡神社拝殿板壁彩色の保存処置(受託研究報告)  
(中里寿克共著) 54. 3
- ③ 文化財保存と表面加工の問題 化学工業29(11) 53. 11
- ③ レジャーと高分子(古美術) 高分子27 53. 8
- ④ 熊野磨崖仏修理における合成樹脂処置と今後の課題  
文化財保存修復研究協議会 53. 9
- ④ 木造文化財建造物修復におけるエポキシ樹脂の応用  
エポキシ樹脂技術協会研究委員会 53. 11
- ④ 建造物修復における合成樹脂の応用  
日本材料学会エポキシ樹脂専門部会 54. 1
- ⑤ 文化財修復と保存科学 埼玉県文化財保護協会文化財講習会 53. 7
- ⑤ 合成樹脂による遺物取り上げ保存  
奈良国立文化財研究所埋文センター講習会 53. 7
- ⑤ 遺物の保存・修復に用いられる合成樹脂  
昭和53年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修会 53. 11

### 青木 繁夫(第三修復技術研究室)

- ② 出土鉄製品の保存修復 月刊文化財182号 53. 11

## 情報資料部

### 久野 健(情報資料部長)

- ① 白鳳の美術 六興出版 53. 4

主要研究業績

- ① 秘仏 学生社 53. 8
- ② 朝鮮三国仏と日本の初期仏教美術 みづゑ879—882 53. 6～53. 9
- ② 唐招提寺と安如宝 井上光貞博士記念論文集 53. 8
- ② 飛鳥・白鳳小金銅仏の発願者、制作者（上） 美術研究309 54. 3
- ⑤ 飛鳥・白鳳彫刻と渡来仏 美術部・情報資料部公開学術講座 53. 11

江上 綏（主任研究官）

- ② 延暦寺蔵金銀交書法華経の荘嚴画 美術研究309 54. 2
- ③ 西本願寺本三十六人集1～3 月刊百科196～198 54. 1～3
- ⑥ 世界考古学事典（文様関係の項） 平凡社 54. 2

上野 アキ（文献資料研究室長）

- ② キジル日本人洞の壁画ール・コック収集西域壁画調査(1) 美術研究308号 53. 10
- ② 概説・中央アジアⅠ（東部） 考古学事典 平凡社 54. 2
- ④ 中国文物瞥見（上・下） 美術部研究会 53. 12, 54. 1
- ⑥ 中国の旅 アルク160号 53. 12

米倉 迪夫（文献資料研究室）

- ② 「隨身庭騎絵巻」 新修日本絵巻物全集26 角川書店 53. 9
- ③ 「小野雪見御幸絵巻」 国華1016 53. 9
- ⑤ 「似絵について」 美術部・情報資料部公開学術講座 53. 11

関口 正之（写真資料研究室長）

- ② 霊雲寺所蔵大威徳明王画像について 国華1014 53. 8
- ④ 霊雲寺の仏画 美術部・情報資料部研究会 53. 6

河野 元昭

- ② 抱一の伝記・抱一の有年紀作品「琳派絵画全集 抱一派」

## 調査研究

- 日本経済新聞社 53. 12
- ③ 待合の掛物一円山四条派— 淡交32-5, 6, 7, 8, 10, 12 53. 5, 6, 7, 8, 10, 12
- ③ 谷文晁筆山水図屏風 国華1015 53. 8
- ③ 琳派花木図屏風の流れ 「日本屏風絵集成6」 講談社 53. 9
- ③ 教育者としての谷文晁 栃木県立美術館谷文晁展カタログ 54. 2
- ④ 探幽縮図について 美術部研究会 53. 4

## 8 その他の研究活動

### ほかの機関における講義など

(氏 名)	(機 関 名)	(担当科目)
川 上 涇	青山学院大学非常勤講師	東洋美術史
宮 次 男	“ ”	日本絵画史
田 村 悦 子	“ ”	書道史
柳 沢 孝	東京大学文学部 “	文化交流
猪 川 和 子	帝京大学 “	日本美術史
田 実 栄 子	お茶の水女子大学家政学部 “	服飾史特論Ⅱ
“	日本女子大学 “	服飾文化史特論
陰 里 鉄 郎	福島大学教育学部 “	近代日本美術史
鶴 田 武 良	成蹊大学 “	中国絵画史
江 本 義 理	東京芸術大学美術学部 “	保存科学特論
馬 淵 久 夫	東京大学工学部 “	放射化学
田 辺 三郎助	東京大学文学部 “	日本木彫史
関 口 正 之	千葉工業大学 “	文芸学・芸術学
江 上 綏	埼玉大学教養学部 “	日本美術史

## Ⅵ 事 業

### 1 出 版

#### (1) 美術研究

昭和7年1月創刊・当所美術部の調査研究の成果を公表するための機関誌であって、主として所属研究員の執筆にかかる論文・研究資料・図版解説・美術関係文献の校刊等を掲載し、ときには所外研究者の寄稿を受けることもある。A4版、各号本文40頁原色図版1、単色図版8で、昭和53年度は、次のとおりである。

美術研究 309号 昭和53年12月編集

##### <論説>

延暦寺藏金銀交書法華經の莊嚴画 江上 綏

飛鳥・白鳳小金銅仏の発願者、制作者（上） 久野 健

美術研究 310号 昭和54年2月編集

##### <論説>

飛鳥・白鳳小金銅仏の発願者、制作者（下） 久野 健

新資料 紀州東照宮の服飾類（中）

—紀州東照宮服飾類調査報告（1）— 神谷 栄子

##### <研究資料>

狩野探幽筆鳥類写生帳模本（大英博物館蔵）について 辻 惟雄

来振寺本五大尊像より再出の紀年銘 有賀 祥隆

#### (2) 日本美術年鑑

昭和11年創刊。毎年1冊（ただし昭和19～21、同22～26、同49・50年は各合冊）出版し、昭和54年3月までに35冊を刊行した。内容は毎年1月から12月までの美術界の活動状況を記録するので、美術界年史、展覧会記録、美術文献目録、物故者略歴等を収録し、編集は主として第二研究室があたり、美術部、情報資料部研究員の調査執筆

## 事業

による。

日本美術年鑑 昭和51年版

昭和53年8月31日発行

日本美術年鑑 昭和52年版

昭和54年3月31日発行

### (3) 芸能の科学

#### 芸能の科学10 (芸能論考V)

本年度は、芸能論考集として下記の諸論文を収録し、刊行した。

日本の箏とアジアのツィター属

山本 宏子

五木の子守唄に見る子守唄の原型

柿木 吾郎

じんやく踊考

中村 茂子

船の芸能史考

三隅 治雄

狂言の囃子事

羽田 翹

### (4) 保存科学

昭和39年3月創刊による保存科学部・修復技術部の機関誌で、年1回の刊行により先年度までに第17号までを発行した。内容は所属研究員による文化財の保存と修復に関する科学的調査、研究、受託研究報告等の論文報告等である。なお、本年度は第18号を発行した。

#### 保存科学第18号 昭和54年3月発行

(1) 縄文晩期の塗装について

見城 敏子

(2) 質量分析計へのマイクロコンピュータの応用 藤井清志・平尾良光・馬淵久夫

(3) 文化財周辺気中の塵埃に関する研究〔Ⅱ〕

一走査電子顕微鏡, X線アナライザーによる銅板葺屋根の汚染物質の測定—

門倉武夫・鈴木良延・西当修作

(4) 建築彩色に発生する糸状菌の防除法

新井 英夫

(5) レオナルド・ダ・ビンチ展における生物劣防除 新井英夫・森 八郎・門倉武夫

(6) タケ材の虫害と防除措置

森 八郎・新井英夫

(7) 遺跡の崩壊防止のための合成樹脂処置法の研究

小野 堯之

(8) 国宝・大崎八幡神社拝殿板壁彩色の保存処置 受託研究報告第46号

出 版

中里寿克・樋口清治

- |                       |       |
|-----------------------|-------|
| (9) 平安時代漆芸技法資料Ⅷ       | 中里 寿克 |
| (10) 石造文化財の保存に関する海外研修 | 西浦 忠輝 |
| (11) 昭和53年度修復処置概報     | 修復技術部 |

(5) その他の出版物

美 術 部

- |              |              |      |
|--------------|--------------|------|
| 支那古版画図録      | (美術研究資料第1輯)  | 昭和7  |
| 吉備大臣入唐絵詞     | (美術研究資料第2輯)  | 昭和9  |
| 徽宗摹張萱搗練図     | (美術研究資料第3輯)  | 昭和10 |
| 鳳凰堂雲中供養仏     | (美術研究資料第4輯)  | 昭和11 |
| 桃山時代金碧障壁画    | (美術研究資料第5輯)  | 昭和12 |
| 富貴寺壁画        | (美術研究資料第6輯)  | 昭和13 |
| 印度及南部アジア美術資料 | (美術研究資料第7輯)  | 昭和14 |
| 光悦色紙帖        | (美術研究資料第8輯)  | 昭和14 |
| 菱田春草         | (美術研究資料第9輯)  | 昭和15 |
| 能恵法師絵詞       | (美術研究資料第10輯) | 昭和16 |
| 宮素然筆明妃出塞図巻   | (美術研究資料第11輯) | 昭和16 |
| 日本美術資料       | 第1輯          | 昭和13 |
| 日本美術資料       | 第2輯          | 昭和14 |
| 日本美術資料       | 第3輯          | 昭和15 |
| 日本美術資料       | 第4輯          | 昭和16 |
| 日本美術資料       | 第5輯          | 昭和17 |
| 近代日本美術資料     | 第1輯          | 昭和23 |
| 近代日本美術資料     | 第2輯          | 昭和24 |
| 近代日本美術資料     | 第3輯          | 昭和26 |
| 墨跡資料集        | 第1輯          | 昭和24 |
| 墨跡資料集        | 第2輯          | 昭和24 |
| 墨跡資料集        | 第3輯          | 昭和26 |

## 事業

源氏物語絵巻		昭和24
黒田清輝素描集		昭和24
柴山寺八角堂		昭和25
柴山寺八角堂の研究		昭和26
法隆寺金堂建築及び壁画の文様研究		昭和28
黒田清輝作品集		昭和29
高雄曼荼羅		昭和41
明治美術基礎資料集		昭和50
東洋美術文献目録	明治以降昭和10年まで	昭和16
東洋美術文献目録続編	昭和11年～同20年	昭和23
東洋古美術文献目録	昭和21年～同25年	昭和29
美術研究索引	第1号～第100号	昭和16
美術研究総目録	第1号～第230号	昭和40
東洋美術文献目録	明治以降昭和10年まで（再刊）	昭和42
日本東洋古美術文献目録	昭和11年～同40年	昭和44

ほかに科学研究費補助金（研究成果刊行費）の交付を受け、または本研究所の監修で刊行された図書は次のとおりである。

### 光学的方法による古美術品の研究

東京国立文化財研究所光学研究班編	吉川弘文館	昭和30
梁楷 美術研究所編	便利堂	昭和32
醍醐寺五重塔の壁画 高田 修編	吉川弘文館	昭和34
平安時代世俗画の研究 秋山光和著	吉川弘文館	昭和39
近代日本美術の研究 隈元謙次郎著	大蔵省印刷局	昭和39
黒田清輝 隈元謙次郎著	日本経済新聞社	昭和41
扇面法華経 秋山光和 柳沢 孝著 鈴木敬三	鹿島出版会	昭和47
金字宝塔曼陀羅 宮 次男著	吉川弘文館	昭和50

## 芸 能 部

標準日本舞踊譜			昭和35
音盤目録 I			昭和40
芸能の科学 1	—芸能資料集 1—四世鶴屋南北作者年表		昭和41
芸能の科学 2	—芸能資料集 2—鮫の神楽台本集成		昭和41
音盤目録 II			昭和45
東大寺修二会	観音悔過（お水取り）		
	東京国立文化財研究所芸能部監修	ビクターレコード	昭和46
芸能の科学 3	—芸能論考 I		
	東京国立文化財研究所芸能部編	平凡社	昭和47
芸能の科学 4	—芸能資料集 III		
	東京国立文化財研究所芸能部編	平凡社	昭和48
芸能の科学 5	—芸能論考 II		
	東京国立文化財研究所芸能部編	平凡社	昭和49
芸能の科学 6	—芸能調査録 I「東大寺修二会の構成と所作」（上）		
	東京国立文化財研究所芸能部編	平凡社	昭和50
芸能の科学 7	—芸能調査録 II「東大寺修二会の構成と所作」（中）		
	東京国立文化財研究所芸能部編	平凡社	昭和52
芸能の科学 8	—芸能論考 III		
	東京国立文化財研究所芸能部編	キタムラ書房	昭和52
芸能の科学 9	—芸能論考 IV		
	東京国立文化財研究所芸能部編	キタムラ書房	昭和53
音盤目録 III			昭和53
芸能の科学 10	—芸能論考 V		
	東京国立文化財研究所芸能部編	キタムラ書房	昭和54

## 保存科学部（受託研究報告）

重要文化財円成寺本堂内陳彩色剥落どめ他18件	昭和35～昭和42
------------------------	-----------



## 事業

### 修復技術部

表具の科学（特別研究・軸装等の保存及び修復技術に関する科学的研究報告書）

昭和53

## 2 黒田清輝巡回展

黒田清輝の遺作の多くを所蔵している本研究所は、黒田清輝の功績を記念し併せて地方文化の振興に資するために、昭和52年度からの事業として黒田清輝巡回展を年1回地方において開催してきた。

本年度は千葉市において開催した。

会 期 昭和53年4月27日～5月28日

会 場 千葉県立美術館

主 催 東京国立文化財研究所・千葉県立美術館

開催日数 28日間

入場者数 13,459人

陳列点数 油彩44点、デッサン50点、写生帖17冊、書簡3通、日記5冊、写真  
パネル2、彫像1点、遺品2点、記録写真16枚

目 録 A4判変型104頁、原色版6頁、単色版66頁

講演会 日時：5月6日午後2時 会場：千葉県立美術館

演題：黒田清輝と明治絵画 講師：陰里鉄郎

## 3 公開学術講座

### 美術部・情報資料部

日 時 昭和53年11月11日（土） 13：30～16：30

会 場 日本経済新聞社小ホール（9階）

講 演 (1)似せ絵について 情報資料部文献資料研究室 米倉 迪夫

(2)飛鳥・白鳳彫刻と渡来仏 情報資料部長 久野 健

### 芸 能 部

日 時 昭和53年12月7日（木） 18：00～21：00

会 場 朝日講堂

講 演 (1)日本の箏とアジアのツィター属 音楽舞踊研究室 山本 宏子  
(2)求められる技法の変化 音楽舞踊研究室 柿木 吾郎  
実演と話 野坂 恵子・宮下 伸

#### 4 会 議

##### 保存科学部・修復技術部

##### 第8回文化財保存修復研究協議会

日 時 昭和53年9月28日 10:00~17:00

会 場 本研究所別館会議室

テ ー マ 「石造文化財の保存・修復・復元」

本年度は、昭和48年度の「石造文化財の保存修復」以降の石造文化財修復に関する問題点の討議を行った。出席者は文化庁から北村文化財鑑査官以下、記念物課、建造物課、美術工芸課、無形文化民俗文化課の担当調査官、東京国立博物館工芸課、考古課、東京芸術大学美術学部、更に関係機関として奈良国立文化財研究所、元興寺仏教民俗資料研究所、美術院国宝修理所、文化財建造物保存技術協会から出席を得た。

(発表課題・発表者)

1. 珍敷塚の復元模造と石造遺跡保存の問題点  
文化庁文化財保護部美術工芸課 文化財調査官 三輪 嘉六
2. 臼杵磨崖仏の復元模造と将来の修復計画  
文化庁文化財保護部美術工芸課 文化財調査官 鷺塚 泰光
3. 旧帝国京都博物館飾石の破損と修復について  
文化庁文化財保護部建造物課 専門員 五味 盛重
4. 大分県磨崖仏群の化学組成 保存科学部化学研究室長 馬淵 久夫
5. 石造文化財保存に関する海外研修報告  
修復技術部第一修復技術研究室 西浦 忠輝
6. 熊野磨崖仏修理における合成樹脂処置と今後の課題  
修復技術部第三修復技術研究室長 樋口 清治

## 事業

### 第7回文化財保存科学懇談会

日時 昭和54年2月27日

場所 本研究所別館会議室

文化財の保存と修復に関し、保存科学部・修復技術部の調査研究が円滑に推進され、文化財保護事業に効果をもたらすことを目的として、文化庁文化財保護部文化財鑑査官、記念物課、建造物課、美術工芸課の課長及び担当技官の出席を得て、本年度の両部の特別研究、受託研究、一般研究の報告を行い、昭和54年度の両部の調査研究計画を説明した。一昨年度から始った特別研究「石造文化財の保存・修復に関する科学的研究」(3カ年継続)について文化庁側に協力を求め、また文化財保存修復研究協議会及び研究テーマの選択について具体的な意見交換を行った。

### 文化財の保存及び修復に関する国際研究集会

昭和52年11月に開かれた第1回に引き続き、第2回が開かれた。本年度は文化財一般の保存・修復処置の前段階において重要な基礎データを与える化学分析を中心のテーマとした。

講演者は組織委員会により選定され、海外6名、日本10名であった。講演は下記のような6セッションに分けて行われた。日程は次のとおりである。

名称 文化財の保存及び修復に関する国際研究集会—文化財と分析化学—

(The 2nd International Symposium on the Conservation and Restoration of Cultural Property —Cultural Property and Analytical Chemistry—)

日時 昭和53年11月27日～30日(4日間)

27日～29日 講演・討議 国立社会教育研修所

30日 現地討議 筑波学園都市

<演題及び発表者>

第1日

[セッション1 絵画]

1. The Scientific Analysis of Paintings and their Structures: Facilities and Communication(絵画とその構造の科学的分析:装置とコミュニケーションの問題)

会 議

カナダ国立博物館顧問 N・ストロー

2. Using Scientific Analysis in the Art Historical Study of Old Japanese Painting  
(古代日本画の歴史学的研究へ科学的分析の応用)

東京大学教授 秋山光和

[セッション2 顔料・染料・うるし]

3. Physical and Microchemical Methods used for the Identification of Pigments and Dyestuffs-Possibilities and Limits (顔料・染料の同定に用いられる物理的・ミクロ化学的方法—可能性と限界)

ドイツ博物館員 ヘルマン・キューン

4. Chemical Procedure for the Determination of Plant Dyes in Ancient Japanese Textiles (古代日本の染織品における植物染料の決定の化学的方法)

進化生物学研究所主任研究員 林 孝三

5. Attempts to understand Japanese Lacquer as a Superdurable Material (超耐性物質としての漆)

東京大学生産技術研究所教授 熊野谿 従

6. Determination of Copper, Iron and Manganese in Japanese Lacquers by Atomic Absorption Spectroscopy (原子吸光分析法による漆中の銅・鉄・マンガンの定量)

保存科学部主任研究官 見城敏子

第2日

[セッション3 金属]

7. Solid Samples from Metallic Antiquities and Their Examination (金属遺物からの試料採取と検定)

アメリカスミソニアン研究所主任コンサベーター トム・チェイス

8. Simultaneous Multielement Analysis of Coins by Inductively Coupled Plasma-Optical Emission Spectroscopy (ICPを用いる古銭の分析)

筑波大学講師 野津憲治

9. Non-Destructive Analysis of Bronze Objects (青銅器の非破壊分析)

奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部考古第一調査室研究員 沢田正昭

## 事 業

### 〔セッション4 遺物・遺跡〕

10. L'Application des Techniques de Fluorescence X au Laboratoire de Recherche des Musées de France (ルーブル美術館研究所における蛍光X線分析の応用)

フランスルーブル美術館化学分析研究主任 クリスチャン・ラーニエ

11. Disintegration Products from Relics and Sites (遺物・遺跡の析出物)

保存科学部長 江本義理

12. Analysis and Scientific Evaluation of Wood, Textiles, Metals, Biological Materials, and Others Excavated from Chunma and Whangnam King's Tombs (5-6th Century) of Silla Dynasty (天馬塚及び皇南古墳の木材、繊維、金属、生物試料等の分析と科学的考察)

韓国原子力研究所副所長 金 裕善

### 第3日

### 〔セッション5 核技術〕

13. Conservation of Cultural Properties and Mössbauer Spectroscopy (文化財保存とメスバウアー分光法)

東京大学教授 富永 健

14. Activation Analysis of Traditional Japanese Paper (和紙の放射化分析)

保存科学部化学研究室長 馬淵久夫

15. Lead Isotope Ratios in Some Japanese and Chinese Archaeological Bronzes (日本・中国の考古学的青銅遺物の鉛同位体比)

名古屋大学名誉教授 山崎一雄

### 〔セッション6 一般問題〕

#### Problems of the Museum Laboratory

#### 〔出席者〕

文化庁文化財保護部長他関係官、東京国立文化財研究所保存科学部、修復技術部関係者、その他、文化財保存関係研究者、技術者等 100 名

## 5 国際・国内交流

### 所 長 室

日米芸術家交流計画による芸術家の受入れを行った。

氏名・国籍：ペイトン・ホール (Peyton・Hall) 27才, 米国

専 門：建築学

目 的：文化財建造物の保存と都市計画に関する研究

受入れ期間：(53.9.18より8か月間)

### 美 術 部

美術部出版物の諸外国研究機関・博物館・図書館等との交換，外国の研究者との交流も活発に行われた。

国際交流基金の招聘により昭和51年6月20日來日した大韓民国成鈞館大学校廉殷鉉教授は，本年度も引続き日韓美術交流の研究を行った。

川上部長 (53.7.18～8.4)，鶴田研究員 (53.7.18～8.12) は，林維源記念文化財団の招聘により台北市所在の中国絵画及び画家資料を調査した。

宮第一研究室長は，ロンドン，ダブリン，ニューヨークにおける中世日本絵入り図書に関する国際会議に出席し，会議後アメリカ主要美術館所蔵の日本中世絵画，特に絵巻を調査した。(53.8.10～10.5)

柳沢主任研究官は，ハーバード大学から招聘され，在米日本仏画の共同研究に参加するため渡米した。(53.9.4～11.10)

### 芸 能 部

柿木吾郎音楽舞踊研究室長は，日本学術振興会の研究費による国際共同研究「インドネシア音楽の民族音楽学的研究」の第一次調査として，オーストラリア，ニューギニア，インドネシアの現地調査を行い，インドネシアには三隅治雄芸能部長並びに橋本弘次情報資料部員が同行した。(53.7.20～9.10)

## 事業

### 保存科学部

保存科学部、三浦定俊物理研究室技官は文部省在外研究員（長期）として、昭和53年11月1日より同54年10月30日まで「遺跡建造物における水分の挙動に関する研究」の目的で、フランス（フ史記念物研究所、建築土木研究所等）を中心にイタリア、ベルギー、イギリス、カナダ、アメリカ合衆国等に出張、現在フランスに滞在して研修を行っている。

### 修復技術部

第三修復技術研究室青木繁夫研究員は昭和53年度科学研究費補助金による「イラク・ハムリン山地テル、グッパ発掘調査」（研究代表者、国土館大学イラク古代文化研究所、藤井秀夫）の団員として、昭和53年5月9日より同年6月22日までイラクに出張し出土人骨に対する考古学的取り上げ（埋葬状況を把握するため遺構ごとに取り上げる）及び人類学的取り上げ（人骨だけを取り上げ計測可能なまでに強化する）処置を実施、指導した。

第一修復技術研究室西浦忠輝研究員はユネスコから奨学金を受けて昭和53年4月24日より同年7月28日まで、イタリア・ベニスにおけるユネスコ主催「石の保存と処置」研修会に参加し、その後アメリカ合衆国ニューヨーク大学で同じく石造文化財保存に関する研修を行った。

### 情報資料部

外国の美術史研究者で、当部の資料を利用して研究を行い、又研究上の意見を交換するなど、今年度も多数の来訪者があった。

久野情報資料部長は大韓民国に出張し、瑞山・泰安の石仏、慶州南山の諸像の調査を行った（53.4.29～5.2）。またインド・スリランカに出張し、古代仏教芸術及びヒンドゥ教彫刻の調査を行った。（53.12.26～54.1.8）

江上主任研究官は、インド・パキスタン・アフガニスタンに出張し、各地の博物館並びに遺跡における古代文様資料並びに絵画資料について調査した（53.8.21～9.4）。

上野文献資料研究室長は中華人民共和国に出張し、北京・西安・太原・大同の各地で中国古代美術の調査を行った。（53.7.5～7.18）

## 国際交流

米倉研究員はアメリカ合衆国に出張し、各地の美術館において日本中世絵画作品、資料について調査を行った。(53. 8. 24~10. 26)

関口写真資料研究室長は科学研究費海外学術調査「イラン・イラクにおける美術・考古学的調査」(代表者・東京大学 深井晋司)に参加し、イラン南西部のターク・イ・ブスターン磨崖浮彫の調査を行った。(53. 9. 6~10. 26)

### 海外研究者の来訪

保存科学関係者、博物館関係者の保存科学部、修復技術部への施設視察及び意見交換、研修等のための来訪者は昨年来増加しており、下記のように19名に達した。

- |                          |                  |
|--------------------------|------------------|
| ・イラン考古調査センター長            | フィロス・バゲルザデ氏      |
| ・西ドイツ考古学研究所              | フランツ・シュールベル博士夫妻  |
| ・韓国文化財研究所長               | 金正基博士            |
| ・アメリカ合衆国国土地理院            | フレデリック・ドイル氏      |
| ・西ドイツ技術大学写真測量研究所         | ゴットフリート・コネクニイ氏   |
| ・アメリカ合衆国ボストン美術館          | L・M・スミス女史        |
| ・西ドイツ国立プロイセン博物館群ラトゲン研究所長 | ヨーゼフ・リーデラー博士     |
| ・マレーシア国立博物館              | M・R・B・H・アーマド氏    |
| ・チュニジア国立博物館長             | エナルファ・ムーギ氏       |
| ・イギリス王立図書館修復員            | ロイ・グレイ氏          |
| ・アメリカ合衆国ボストン美術館          | ウェンディ・ジェサップ氏     |
| ・ICCROM 会長               | バーナード・M・フィールデン博士 |
| ・フランス国立博物館群絵画修復部         | セゴレーヌ・F・ベルジョン女史  |
| ・ノルウェー・スヌメヤ博物館染織部長       | J・フリスボルド女史       |
| ・フランス国立博物館群保存部員          | クリスティス・シミズ女史     |
| ・アメリカ合衆国建築家(日米友好基金交換芸術家) | ジョージ・ペイトン・ホール氏   |
| ・チュニジア文化省渉外担当審議官         | A・グマール氏          |
| ・同、エルジェム博物館員             | ヘディ・スリム氏         |
| ・韓国文化財研究所保存研究科学室員        | 李昶根氏             |

(国際研究集会招待者6名を除く)



## 事 業

### 招へい研究員

昭和53年度より招へい研究員の制度が設けられ、国外2名、国内2名の研究員に委嘱され、下記のように共同研究が行われた。

1) クリスチャン・ラーニエ博士（フランス博物館研究所）

共同研究課題 古文化財の機器分析

研究代表者 保存科学部化学研究室長 馬淵久夫

委嘱期間 53年11月13日～12月12日

2) ナサン・ストロー博士（カナダ国立博物館）

共同研究課題 古文化財に及ぼす湿度の影響

研究代表者及び共同研究者 保存科学部化学研究室長 馬淵久夫

主任研究官 見城敏子

委嘱期間 53年11月24日～12月27日

3) 藤井 清志（苫小牧工業高等専門学校）

共同研究課題 質量分析計へのマイクロコンピュータの応用

研究代表者 保存科学部化学研究室長 馬淵久夫

委嘱期間 53年7月22日～8月31日

4) 小野 堯之（東北大学工学部助教授）

共同研究課題 遺跡の崩壊防止のための合成樹脂処置法の研究

研究代表者 修復技術部第三修復技術研究室長 樋口清治

委嘱期間 53年10月5日～11月19日

## Ⅶ 研究施設・設備

### 1 蔵 書

#### 美術部・情報資料部

日本・東洋古美術，日本近代・現代美術，西洋美術の全般にわたる研究書を中心に，関連図書，各種叢書，辞典類など漢書（31,057），洋書（3,763）計34,820冊のほか，各都道府県市町村教育委員会編集の文化財関係報告書，美術関係雑誌，紀要類，売立目録，展覧会目録などを所蔵し，部内外及び研究所外の研究者の利用に供している。

#### 芸 能 部

雅楽・能・歌舞伎・文楽・邦楽・邦舞・民俗芸能・寄席芸その他わが国の伝統芸能の研究に必要な図書4,903冊を所蔵する。演芸画報・歌舞伎新報・歌舞伎（第1次）・テアトロ（第1次）・新劇・上方・民俗芸術・日本民俗・芸能復興・郷土研究・旅と伝説等の雑誌，丸本・謡本等の台本も収集している。

#### 保存科学部・修復技術部

古来の伝統的生産及び工芸技術書，技術史，又は数少ないそれらの科学的究明を試みたもの，修理工事報告書，及び化学・物理・生物学部門の保存科学に関連ある和洋書を合わせて2,121冊を所蔵している。

昭和52・53年度の新蔵書数は次のとおりである。

区 分	美術部 情報資料部		芸 能 部		保存科学部 修復技術部		計
	和漢書	洋 書	和漢書	洋 書	和漢書	洋 書	
昭和52年度	1,007冊	58冊	296冊	一冊	23冊	48冊	1,432冊
昭和53年度	982冊	79冊	346冊	5冊	96冊	36冊	1,544冊

## 2 資 料

### 美術部・情報資料部

実物よりの直接撮影による写真を含む写真資料の作成整理と、購入写真、複写写真による補足整備に加えて、印刷物中の図版をもおさめるという方式で、当研究所設立当初より一貫して力を注いできた写真資料を有する。それらは日本・東洋古美術、日本近代・現代美術、西洋美術の全域にわたり、それぞれ絵画、書蹟、彫刻、工芸、建築等の諸部門に及ぶ。特別大型のものから小型のものまで総数凡そ24万点、原板保有量はほぼ3分の1にあたり、別にマイクロ・フィルム250巻がある。写真資料のほか、拓本、作家伝記資料、落款印章資料、近代・現代作家・団体・作品資料、資料スクラップ等と、図書カード、図版カード、各種索引類など多数。

### 芸 能 部

レコード・録音テープ・写真（8ミリ・16ミリシネを含む）等による芸能資料を多数そなえている。レコードには、毎年各製作会社から発売される伝統芸能関係レコードのほか、昭和35年度文部省機関研究費によって購入した安原コレクションレコード5,450枚が含まれている。安原コレクションは、明治・大正・昭和三代にわたって発売された各種邦楽レコードを網羅したもので、近代における邦楽の実態と変遷を知る上で貴重な資料である。録音テープ及び写真は、雅楽・能・歌舞伎・邦楽・邦舞・寺院行事・民俗芸能その他の伝統芸能を対象に記録してきたもので、奏演法の解析を中心とした写真・テープ、あるいは各種文書の記録写真等も含んでいる。種別による所蔵数は次のとおりである。

区 分	レコード	録音テープ	シネフィルム		写 真
			8 $\frac{mm}{mm}$	16 $\frac{mm}{mm}$	
昭和52年度 までの累計	6,219 枚	2,111 本	198 本	3 本	多 数
昭和53年度	104 "	95 "	0 "	0 "	"
計	6,323 "	2,206 "	198 "	3 "	"

### 3 機器・設備

#### 美術部・情報資料部

#### 機 器

1. X線透過撮影装置
  - (1) 可搬式ソフテックス装置 (J型) 1式
  - (2) 可搬式ソフテックス装置 (新J型) 1式
  - (3) 携帯用ソフテックス装置 (E型) 1式
2. 紫外線照射装置
  - (1) 可搬式照射装置 (フィリップス紫外線ランプ及び専用トランス) 2台
  - (2) 携帯用紫外線検査器 1台
3. 顕微鏡装置
  - (1) 双眼実体顕微鏡及び写真装置 1式
  - (2) 新型双眼実体顕微鏡及びカラー顕微鏡写真同時撮影装置 (可動支持台及び携帯用スタンド) 1式
  - (3) 検査顕微鏡用側視鏡ユニット・モノフォト装置 1式
4. マイクロ写真関係設備
  - (1) マイクロ写真撮影装置 (付自動現像機, プリンター, 引伸機・乾燥機等) 1式
  - (2) ポータブル・マイクロ写真撮影装置 1式
  - (3) マイクロ閲読機 (ルーモ社製) 3台
  - (4) リーダープリンター 1台
5. デアスコープ (視聴覚教育装置) 1台
6. カメラ類
  - (1) リンホフカルダン 1台
  - (2) リンホフテヒニカ 3台
  - (3) コメット・ストロボCP-1200DX 1台
  - (4) 工業用ファイバースコープ 1式
7. 引伸機

## 研究施設・設備

(1) オメガ (4×5)	2台
(2) フジA690	1台
(3) フジS69	1台
8. 複写台 コピースタンド (1300)	1台
9. 乾燥機 FCオート (全紙)	1台
10. ドライマウント シールコマーシャル210M	1台
ドライマウント シールコマーシャル70	1台
11. マルチカードセクター (HAC841S型)	1式
12. 複写機 ユービックス480	1台
13. 製本機 サーマバインドT220	1台

## 芸 能 部

### 機 器

1. 分析機器	
(1) ビッチレコーダー	1台
(2) メログラフ BT型	1式
2. オーディオ関係機器	
(1) レコードプレーヤー	8台
(2) テレビ	1台
(3) テープレコーダー	18台
(4) ビデオテープレコーダー	1台
(5) ステレオ音声調整卓	1台
(6) スピーカー	6台
3. 撮影・映写機器	
(1) 16mm撮影機	1台
(2) 16mm映写機	1台
(3) 8mm撮影機	4台
(4) 8mm映写機	2台
(5) 35mm写真機	6台

機器・設備

- |                               |    |
|-------------------------------|----|
| (6) 35 $\mu$ mマイクロフィルム解読装置    | 1台 |
| (7) 35 $\mu$ mマイクロフィルム解読・複写装置 | 1台 |
| (8) 16 $\mu$ mマイクロ写真機         | 1台 |
| (9) 16 $\mu$ mシネフィルム分析装置      | 1台 |
4. 照明器具
- |               |    |
|---------------|----|
| (1) スタジオ用照明器具 | 1式 |
|---------------|----|

保存科学部・修復技術部

機 器

1. 強度・劣化試験機

- |                                   |    |
|-----------------------------------|----|
| (1) サンシャインウェザーメーター（劣化促進試験機）       | 1台 |
| (2) 万能試験機（島津，オートグラフ，インストロン型，10トン） | 1式 |
| (3) 回折格子光照射器                      | 1台 |
| (4) 紙耐撓強度試験機                      | 1台 |
| (5) 衝撃試験機（シャルピー，アイゾット兼用）          | 1台 |
| (6) 紙耐折試験機（MIT）                   | 1台 |

2. 顕微鏡装置

- |                        |    |
|------------------------|----|
| (1) 金属顕微鏡              | 1台 |
| (2) 生物顕微鏡              | 2台 |
| (3) 表面アラサ顕微鏡           | 1式 |
| (4) 万能顕微鏡              | 1式 |
| (5) 走査型電子顕微鏡（JSM-50A型） | 1式 |

3. 分析装置

- |   |    |
|---|----|
| (1) ガスクロマトグラフ（ガス分析，水素イオン化検出器・<br>熱伝導検出器・熱分解装置付） | 1式 |
| (2) ポーターガスアナライザー（MIRAN-1型）                      | 1式 |
| (3) 回折格子自記赤外分光光度計                               | 1台 |
| (4)                   "                  赤外顕微鏡  | 1台 |
| (5) 自動記録式示差熱天秤                                  | 1式 |

## 研究施設・設備

(6) 炭素・水素・窒素分析計	1 式
(7) 光電分光光度計 (自記)	1 台
(8) 螢光X線分析装置 (標準型及び非破壊用大型試料台つき)	1 式
(9) 可搬式螢光X線分析装置 (現場可搬用)	1 式
(10) X線回折装置及びデバイシェラーカメラ, ラウエカメラ (結晶同定)	1 式
(11) 発光分光分析装置 (M 1 型) (高圧整流スパーク, 直流アーク)	1 式
(12) 質量分析計 (JMB—05 R B 単収束型)	1 式
(13) X線マイクロアナライザー SDS—269 (JSM—50A 附屬)	1 式
(14) 原子吸光分析装置 (マイクロコンピュータ付)	1 式
(15) プラズマリアター PR—151	1 式

## 4. 非破壊検査装置

(1) 工業用X線発生装置 (60 KVP, 4 mA)	1 式
(2) 工業用X線発生装置 (200 KVP, 8 mA)	1 台
(3) Co—60 $\gamma$ 線線源 (透視用 3 c 及び 0.2 c)	2 個
(4) 赤外線 TV カメラ装置	1 式
(5) 超音波探傷装置	1 式
(6) 超音波探傷器 UFD—201 型	1 台
(7) 超音波式コンクリート試験器	1 台
(8) “ 厚み測定器	1 台

## 5. 物性測定機

(1) 粒度分布測定装置	1 式
(2) 熱膨張計	1 台
(3) レオメーター (粘性試験用)	1 式
(4) 直読式動的粘弾性測定器	1 台
(5) 真空蒸着装置 (表面薄膜形成用)	1 台
(6) 簡振盪機 (標準フルイ付)	1 台

## 6. 照明及び温湿度装置

(1) 自記分光放射計 (光源の分光測定)	1 台
(2) ライトガイドカラーメーター (色彩測定)	1 台

黒田記念室

(3) 恒温恒湿槽 (0°C~40°C 20~90%)	1 台
(4) 風速計 (熱式) AM01	1 台
7. 殺虫殺菌装置	
(1) 滅菌装置	2 台
(2) 減圧殺虫装置	1 台
(3) ガス滅菌装置 GS-15特型	1 台
8. 菌種保存用装置	
(1) 超低温槽 (-50°C)	1 台
(2) 冷却遠心機 (-5°C~5°C)	1 台
9. 環境汚染測定装置	
(1) 粉塵計 (記録装置付)	1 式
10. 修復処置装置	
(1) 真空凍結乾燥装置	1 式
(2) 減圧含浸装置	1 式
(3) エヤブラッシュ装置	1 式
(4) 合成樹脂圧入装置	1 式
(5) 水浸木材用含浸装置	1 式
(6) 熱風恒温乾燥機	1 台
(7) 装潢用備品	1 式
(8) 万能木工機	1 台
(9) 漣 嵌 機	1 台

#### 4 黒田記念室

黒田記念室は、本研究所の創立者故帝国美術院長子爵黒田清輝の功績を記念するために設けられた陳列室であって、黒田清輝の油絵・素描・写生帳等を収蔵している。

創立当時主として黒田家から寄贈されたものは、油絵 125 点、素描 170 点、写生帳等であるが、その後黒田照子夫人、樺山愛輔、田中良氏等からの寄贈が加わった。収蔵品の主なるものは、「知感情」・「花野」・「湖畔」・「赤髪の少女」・「もるる日影」・「温室花壇」等である。また昭和52年度より、黒田清輝作品の地方巡回展の予算が認めら



## 閲覧室

れ、本年度は千葉県立美術館で開催した。

## 5 閲覧室

本研究所美術部資料室の図書及び研究資料は主として研究者・学者・美術関係専攻の学生等に公開している。年間の閲覧者数は、延1,000名程度である。

## VIII 旧 職 員

### 昭和53年度における転退職者

所 属	官 職 名	氏 名	在 職 期 間	備 考
庶務課	文部事務官 庶務課長	松 原 尚 躬	54. 4. 1～54. 3. 31	国立極地研 究所へ転出
”	事務補佐員	中 村 ひろ代	52. 4. 1～54. 3. 30	退 職
”	技能補佐員	豊 田 三智子	51. 10. 16～53. 12. 31	退 職

## Ⅸ 関係法規

◎文部省設置法（昭和24年 法律第146号  
最終改正 昭和53年 法律第55号）（抄）

### 第3節 附属機関

（附属機関）

第36条 第43条に規定するもののほか、文化庁に、次の機関を置く。

国立博物館

国立近代美術館

国立西洋美術館

国立国際美術館

国立国語研究所

国立文化財研究所

日本芸術院

- 2 前項の機関（日本芸術院を除く。）の長は、文化庁長官の申出により、文部大臣が任命する。

（国立文化財研究所）

第41条 国立文化財研究所は、文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行う機関とする。

- 2 国立文化財研究所の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
東京国立文化財研究所	東 京 都
奈良国立文化財研究所	奈 良 市

- 3 国立文化財研究所には、支所を置くことができる。
- 4 国立文化財研究所及びその支所の内部組織は、文部省令で定める。

◎文部省設置法施行規則(昭和28年1月31日 文部省令第2号  
最終改正 昭和53年9月9日 文部省令第33号)(抄)

第5章 文化庁の附属機関

第4節 国立文化財研究所

第1款 東京国立文化財研究所

(所長)

第117条 東京国立文化財研究所に、所長を置く。

2 所長は、所務を掌理する。

(内部組織)

第118条 東京国立文化財研究所に、庶務課及び次の5部を置く。

- 一 美術部
- 二 芸能部
- 三 保存科学部
- 四 修復技術部
- 五 情報資料部

(庶務課の事務)

第119条 庶務課においては、次の事務をつかさどる。

- 一 職員の人事に関する事務を処理すること。
- 二 職員の福利厚生に関する事務を処理すること。
- 三 公文書類の接受及び公印の管守その他庶務に関すること。
- 四 経費及び収入の予算、決算その他会計に関する事務を処理すること。
- 五 行政財産及び物品の管理に関する事務を処理すること。
- 六 庁内の取締りに関すること。
- 七 前各号に掲げるもののほか、他の所掌に属しない事務を処理すること。

(美術部の2室及び事務)

第120条 美術部に、第一研究室及び第二研究室を置く。

- 2 第一研究室においては、わが国の上代、中世及び近世の美術並びに東洋美術に関する調査研究を行い、及びその結果の公表を行う。
- 3 第二研究室においては、わが国の近代及び現代の美術並びに西洋美術に関する調査研究を行い、及びその結果の公表を行うとともに黒田記念室に関する事務をつか

## 関係法規

さどる。

### （芸能部の3室及び事務）

第121条 芸能部に、演劇研究室、音楽舞踊研究室及び民俗芸能研究室を置く。

- 2 演劇研究室においては、演劇及びその保存に関する調査研究を行い、並びにその結果の公表を行う。
- 3 音楽舞踊研究室においては、音楽及び舞踊並びにこれらの保存に関する調査研究を行い、並びにその結果の公表を行う。
- 4 民俗芸能研究室においては、民俗芸能及びその保存に関する調査研究を行い、並びにその結果の公表を行う。

### （保存科学部の3室及び事務）

第122条 保存科学部に、化学研究室、物理研究室及び生物研究室を置く。

- 2 化学研究室においては、文化財及びその保存に関する化学的調査研究（分析化学的調査研究を含む。）を行い、並びにその結果の公表を行う。
- 3 物理研究室においては、文化財及びその保存に関する物理学的調査研究を行い、並びにその結果の公表を行う。
- 4 生物研究室においては、文化財及びその保存に関する生物学的調査研究を行い、並びにその結果の公表を行う。

### （修復技術部の3室及び事務）

第122条の2 修復技術部に、第一修復技術研究室、第二修復技術研究室及び第三修復技術研究室を置く。

- 2 第一修復技術研究室においては、木、漆その他次項及び第4項の材料以外のものを材料とする文化財の修復に関する科学的、技術的調査研究を行い、及びその結果の公表を行う。
- 3 第二修復技術研究室においては、紙、布又は革を材料とする文化財の修復に関する科学的、技術的調査研究を行い、及びその結果の公表を行う。
- 4 第三修復技術研究室においては、石、土又は金属を材料とする文化財の修復に関する科学的、技術的調査研究を行い、及びその結果の公表を行う。

### （情報資料部の2室及び事務）

第122条の3 情報資料部に、文献資料研究室及び写真資料研究室を置く。

- 2 文献資料研究室においては、第118条第1号から第4号までに掲げる各部の所掌に係る文献資料その他の資料（写真資料を除く。）の作成、収集、整理、保管、公表、閲覧及び調査研究を行う。
- 3 写真資料研究室においては、第118条第1号から第4号までに掲げる各部の所掌に係る写真資料の作成、収集、整理、保管、公表、閲覧及び調査研究を行う。

◎文部省定員細則（昭和44年5月21日文部省訓令第12号  
最終改正 昭和53年4月5日文部省訓令第14号）（抄）

文部省定員規則（昭和44年文部省令第12号）第2項の規定に基づき、文部省定員細則を次のように定める。

文部省定員細則

- 1 文部省に係る行政機関職員定員令（昭和44年政令第121号）第1条に規定する定員（以下「定員令第1条定員」という。）及び沖縄の復帰に伴う行政機関の職員の定員に関する法律の適用の特別措置に関する政令（昭和47年政令第191号）第1条に規定する定員（以下「特措法政令定員」という。）別の本省の各内部部局、各国立学校、各所轄機関及び各附属機関別の定員並びに文化庁の各内部部局及び各附属機関別の定員は、次の表のとおりとする。

文化庁

区 分		定 員 令 第 1 条 定 員
附属機関	国立文化財研究所	145 人 各国立文化財研究所を通じての 定員とする。

- 2 各国立大学、各国立高等専門学校、各国立大学共同利用機関、各国立青年の家、各国立博物館、各国立近代美術館及び各国立文化財研究所の定員は、国立学校及び本省の附属機関にあっては文部大臣、文化庁の附属機関にあっては文化庁長官が、それぞれ、前項に規定する当該国立学校又は附属機関別の定員の範囲内において、別に定める。

附 則

- 1 この訓令は、昭和53年4月5日から施行し、改正後の文部省定員細則第1項の規

## 関係法規

定及び次項の規定は、昭和53年4月1日から適用する。

### ◎国立博物館等の機関別の定員について（昭和44年5月26日文化庁長官裁定）（抄） （昭和53年4月5日改正）

文部省定員細則（昭和44年文部省訓令第12号）第2項の規定に基づき、各国立博物館、各国立近代美術館及び各国立文化財研究所の機関別の定員を次のとおり定める。

機 関	定 員
東京国立文化財研究所	46 人

## 附 則

この裁定は、昭和53年4月1日から適用する。

### ◎教育公務員特例法施行令（昭和24年1月12日 政令第6号） （最終改正 昭和50年4月17日 第74号）（抄）

（教育公務員以外の者）

（略）

第3条の2 文部省設置法（昭和24年法律 第146号）第14条〔国立の学校等〕及び第36条第1項〔附属機関〕に掲げる機関（日本芸術院を除く。）並びに国立学校設置法（昭和24年法律第150号）第3章の3〔国立大学共同利用機関〕に規定する機関の長及びその職員のうちもっぱら研究又は教育に従事する者並びに国立養護教諭養成所設置法（昭和40年法律第16号）による国立養護教諭養成所の所長、教授、助教授及び助手については、法第4条〔採用及び昇任の方法〕、第7条〔休職の期間〕、第11条〔服務〕、第12条〔勤務成績の評定〕、第19条〔研修〕、第20条〔研修の機会〕及び第21条〔兼職及び他の事業等の従事〕中国立大学の学長及び教員に関する部分の規定を準用する。この場合において、これらの規定中「大学管理機関」とあるのは次の各号の区別に従って読み替え、これらの機関の長及びその職員をそれぞれ学長及び教員に準ずる者としてこれらの規定を準用するものとする。

法第4条第1項〔採用及び昇任の選考〕については、国立学校設置法第3章の3に規定する機関の長及びその職員にあたっては「文部省令で定めるところにより任

命権者」，その他の機関の長及びその職員にあっては「任命権者」

二 法第4条第2項〔採用及び昇任の選考の基準〕 第7条，第11条及び第12条については，「任命権者」

附則（政令74号改正）

この政令は，公布の日から施行する。

◎東京国立文化財研究所部室長会議運営規則（昭和45年1月23日所長裁定）

第1条 東京国立文化財研究所部室長会議（以下「部室長会議」という。）の運営については，この規則の定めるところによる。

第2条 部室長会議は，本研究所の重要事項について協議し，各部課相互の連絡をはかることを目的とする。

第3条 部室長会議は，次の各号に掲げる職員をもって組織する。

一 所長

二 各部長

三 各室長

四 課長

第4条 部室長会議は所長が招集し，その議長となる。

2 所長に事故あるときは，会議出席者の中から互選により議長を定める。

3 所長は必要と認める職員を会議に出席させることができる。

第5条 部室長会議は原則として毎月1回開催する。ただし緊急を要する場合は，随時開催することができる。

第6条 部室長会議に関する事務は，庶務課がこれにあたる。

第7条 この規則に定めるものの他，会議の運営に関して必要な事項は，別に定める。

附 則

この規則は，昭和45年1月23日から施行する。



## 関係法規

### ◎東京国立文化財研究所受託研究取扱規程（昭和46年3月15日所長裁定） （昭和47年10月2日改正）

#### （趣 旨）

第1条 この規程は、東京国立文化財研究所（以下「研究所」という。）における受託研究（外部からの委託を受けて公務として行う研究で、これに要する経費を委託者が負担するものをいう。）の取扱いに関し必要な事項を定めるものとする。

2 受託研究は、研究所の文化財に関する調査研究上有意義であり、かつ本来の調査研究に支障がなく、当該年度の予算額の範囲内において行うものとする。

#### （受託の条件）

第2条 受託研究の受入れ条件は、次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 受託研究は、受託者が一方的に中止することはできないこと。

(2) 受託研究の結果、工業所有権等の権利が生じた場合には、当該権利を無償で使用する、又は譲与することはできないこと。

(3) 受託研究に要する経費により取得した設備等は、返還しないこと。

(4) やむを得ない事由により受託研究を中止し、又はその期間を延長する場合においても、研究所は、その責を負わず、また、原則として受託研究に要する経費を受託者に返還しないこと。ただし、特に必要があると認めた場合は、不用となった経費の額の範囲内において、その全部又は一部を返還することがあること。

(5) 委託者は、受託研究に要する経費を、当該研究の開始前に納付すること。

2 所長は、前項に定めるもののほか、必要と認める条件を別に定めることができる。

3 委託者が国の機関、政府関係機関又は、地方公共団体である場合は、第1項第3号及び第5号の条件は、これを付さないことができる。

4 委託者は、必要がある場合は、所長の承認を得て、その委託にかかる研究を協力して行うことができる。

#### （決定の方法）

第3条 所長は、当該研究を担当する職員、当該職員の所属する室及び部の長の意見を徴したうえ受託研究の受入れを決定する。

#### （受託の申込等）

第4条 受託研究の申込みをしようとする者は、別紙様式による受託研究申込書を所

長に提出しなければならない。

- 2 所長は、受託研究の受入れを決定したときは、その旨委託者及び研究所契約担当職員に通知するものとする。
- 3 前項の通知に基づき契約担当職員は、契約を締結した旨を、所長に通知するものとする。

（研究の中止等）

第5条 受託研究を担当する職員は、当該研究を中止し、又は、その期間を延長する必要があると認めたときは、ただちに所属の室及び部の長を経て所長に報告し、その指示を受けるものとする。

- 2 所長は、受託研究の遂行上やむを得ない理由があると認めたときは、これを中止し、又は、その期間を延長することを決定し、その旨委託者及び契約担当職員に通知するものとする。

（研究結果の報告等）

第6条 受託研究を担当する職員は、当該研究が完了したときは、その結果を所属の室及び部の長を経て所長に報告するものとする。

- 2 委託者に対する受託研究の結果の報告は、当該研究を担当した職員が前項の報告後行うものとする。
- 3 受託研究の成果を公表するときは、所長の承認を得て当該研究を担当した職員が行うものとする。

附 則

この規程は、昭和46年4月1日から施行する。

附 則（昭和47年10月2日改正）

この規定は、昭和47年10月2日から施行する。

関係法規

[別紙様式]

受託研究申込書

昭和 年 月 日

東京国立文化財研究所長 殿

住 所

氏 名 (名称・代表者)

印

東京国立文化財研究所受託研究取扱規程第4条第1項の規定により、下記のとおり  
受託研究の申し込みをします。

記

1. 研究題目
2. 研究目的及び内容
3. 研究に要する経費
4. 研究用資材、器具等の提供
5. その他

### 黒田子爵記念室観覧規程（昭和12年11月29日制定）

第1条 本研究所の黒田子爵記念室（以下単に「記念室」という。）は、この規程によって一般に公開する。

第2条 観覧は無料とする。

第3条 観覧者は、備付けの帳簿に現住所、氏名を記載し、掛員の指示を受けるものとする。

第4条 陳列品の模写又は写真撮影を希望する者は、予め書面により届出で許可を受けなければならない。

第5条 観覧者は、記念室内において左の事項を行ってはならない。

- 1 陳列品に手を触れること。
- 2 インク・墨汁等を使用すること。
- 3 飲食及び喫煙をなすこと。

第6条 観覧者がこの規程に違反し、又記念室公開の趣旨に反する行為があると認めるときは、退場を命ずることがある。

第7条 観覧の日時は毎週木曜日午後1時から同4時までとし、観覧を停止する日は左の通りとする。

祝 日

開所記念日（10月18日）

年末年始（12月25日から翌年1月6日まで）

夏期（7月21日から8月31日まで）

第8条 本研究所において必要があるときは、前条の日時を随時変更することがある。ただし、この場合は予め掲示する。

### ◎東京国立文化財研究所招へい研究員規程（昭和53年8月1日所長裁定）

（目 的）

第1条 この規程は、東京国立文化財研究所（以下「研究所」という。）が実施する特定の調査研究を推進するため、研究所が協力を依頼し、招へいする研究者（以下「招へい研究員」という。）の選考等について定めることを目的とする。

（招へい研究員の資格）

## 関係法規

第2条 招へい研究員の選考は、次の各号の一つに該当する者のうちから行う。

- 一 修士以上の学位を有し、かつ、研究上の業績がある者
- 二 研究所の調査研究に関連した研究業績により、前号に規定する者と同等以上の学力及び研究能力を有すると認められる者

(招へい研究員の選考)

第3条 招へい研究員の選考については、その都度次に掲げる者をもって構成する選考審査会の審査を経て所長が決定する。

- 一 所長
- 二 各研究部長
- 三 研究職の職員のうちから、所長が指名する者

(招へい研究員の委嘱)

第4条 研究所長は、招へい研究員を決定したときは、「東京国立文化財研究所招へい研究員」として委嘱するものとする。

(招へい研究員の任務)

第5条 招へい研究員は、研究所において1か月以上～3か月以内、所長の指示に従い特定の調査研究に参画するものとする。

(報告書の提出)

第6条 招へい研究員は、委嘱期間が満了したとき若しくは病気その他やむを得ない事由により研究を中止したときは、遅滞なく実績報告書を作成し、所長に提出しなければならない。

(旅費の支給等)

第7条 招へい研究員の旅費（滞在費を含む。）支給手続その他この規程の実施に必要な事項については、別に定める。

附 則

この規程は、昭和53年7月10日から適用する。

## ◎東京国立文化財研究所名誉研究員に関する内規

(昭和53年9月26日所長裁定)

第1条 東京国立文化財研究所（以下「研究所」という。）に多年勤務し、研究所の調査研究及び事業に特に顕著な業績を挙げ又は研究所の運営、発展に尽力して特に

功績のあった退職者についてその功に報いるため、これを東京国立文化財研究所名誉研究員（以下「名誉研究員」という。）とすることができる。

第2条 名誉研究員は、各部の推薦により部室長会議の議を経て所長が決定する。

第3条 名誉研究員には、研究所が発行する各種出版物の配布及び研究室利用等の便宜供与について特に配慮する。

第4条 名誉研究員を決定したときは、原則として開所記念日にこれを発表する。

#### 附 則

1. この内規は、昭和53年10月1日から施行する。
2. 研究員であった者で、この内規施行の日以前に退職した者についてもこの内規を適用する。

東京国立文化財研究所要覧（昭和53年度）

昭和55年 3 月25日発行

発行所 東京国立文化財研究所

〒110 東京都台東区上野公園13-27  
電話 (823) 2241 (代)

---